

ANNUAL REPORT

2005 – 2006

No. 29



Department of Social Systems and Management
Graduate School of Systems and Information Engineering
University of Tsukuba

まえがき

システム情報工学研究科社会システム・マネジメント専攻は、社会問題（経済、経営、都市地域等の諸問題）を工学的（分析的、数理的、計量的）な問題発見手法とアプローチによって解明し、政策的および計画的な意味合いを見出す、という研究上の共通目標をもつ研究・教育者の組織である。各構成員は、国内および国際的に求められるような質の高い研究成果を上げるように、また良き教育者であるように努めている。平成 18 年度当初（平成 18 年 4 月 1 日現在）の社会システム・マネジメント専攻の教員は、教授 27 名、助教授 21 名、講師 18 名の計 66 名である。現在、社会システム・マネジメント専攻に所属している教員の平成 17 年度中の研究・教育活動は以下のようにまとめることができる。

(1) 研究活動と国際交流社会システム・マネジメント専攻の研究活動は、平成 17 年度も全分野にわたって活発に展開された。国内外論文・著書発表数、国内外学会発表数は堅調であり、多くの教員は審査付きの国際的な学術誌への論文投稿・登載のために努力した。社会システム・マネジメント専攻発行の Discussion Paper は 31 編（平成 16 年度は 32 編）であった。積極的に競争的資金の獲得に努め、科学研究費補助金等にも着実に採択されている。学会賞等の受賞件数は 5 件であった。国際交流協定は、専攻として責任を持っているものが、精華大学（中華人民共和国）、韓国国土研究院、漢陽大学校（以上、大韓民国）、チェンマイ大学（タイ）、南オーストラリア大学、南オーストラリアフリンダース大学、アデレード大学（以上、オーストラリア連邦）の 7 協定であり、ウィーン経済・経営大学（オーストリア共和国）および中国科学院研究生院（中華人民共和国）との協定に参加している。これらの大学・研究機関とは、若干名ながら研究者および学生の交流・交換が継続されている。外国人研究者の受け入れと教員の海外派遣は極めて多く、国際的な研究交流が盛んであることが示された。

(2) 教育と人事社会システム・マネジメント専攻から教員が、本専攻に加え関連する教育組織は、第三学群の社会工学類、システム情報工学研究科前期博士課程の経営・政策科学専攻、社会システム工学専攻、修士課程環境科学研究科である。社会システム・マネジメント専攻は教員の流動性が非常に高く、それに伴い採用・昇任人事が経常的に行われてきた。そこでは、審査付き学術論文を重視した業績評価を基礎とし、一部実務経験を加味して、開かれた透明な審査に努めてきた。しかし、モビリティの高さは、人事に投入する労力の多さも意味しており、優秀な人材の確保維持のためには、継続した努力が必要である。

本専攻の教員は、様々な研究分野・職歴・国籍をもつ。多様な教員間の活発な交流が、相乗効果により研究成果の向上をもたらすことを期待する。本専攻の更なる成長のためには、研究・教育意欲を刺激するような環境と開かれた運営体制を整備し、中長期的視野に立ち有能な人材を確保することが必要である。また、専攻業績の定期的な記録と自己評価により、専攻教員活動の説明責任を果たさねばならない。本報告書がそのような課題に対応するための資料を提供し、構成員および関係者の意識向上に貢献できれば幸いである。

なお，昨年度まで本専攻のアニユアル・レポートは，社会工学系アニユアル・レポート時代から引き続き印刷物として出版されてきた。しかしながら，資源節約等諸般の事情により本年度からは電子媒体のみでの発行となる。

平成 18 年 9 月 29 日

社会システム・マネジメント専攻長
石田 東生

目 次

I.	概要	1
I-1	沿革	2
II.	教員一覧	4
III.	研究活動	11
III-1	科学研究費・学内プロジェクト	12
III-2	受託研究・奨学寄付金	14
III-3	ファカルティー・セミナー	18
III-4	ディスカッション・ペーパー	21
IV.	各教員研究・教育活動	23
	教授	24
	助教授	70
	講師	109

I. 概要

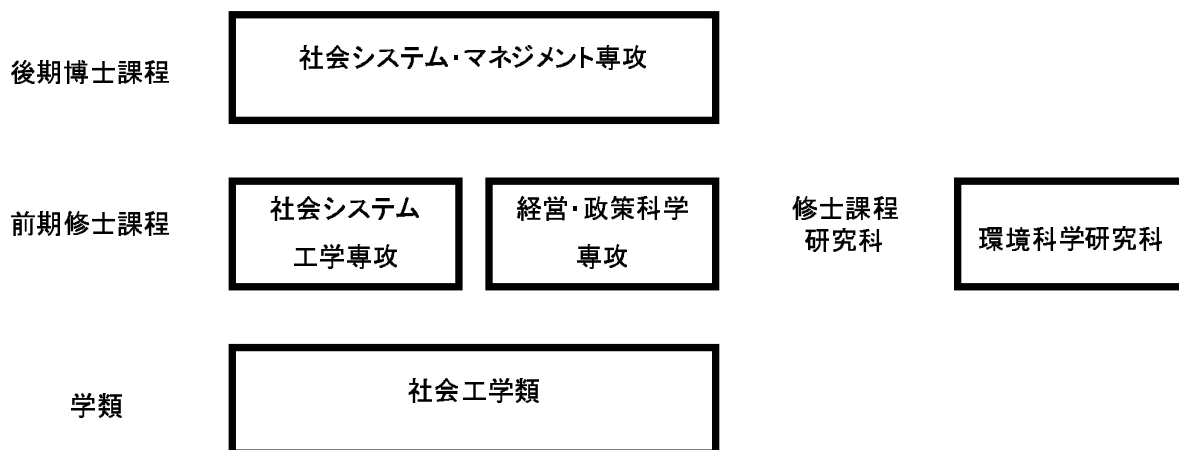


I-1 沿革

- 昭 38. 9 研究学園都市を筑波地区に建設することを閣議了解
昭 45. 5 筑波研究学園都市建設法成立
昭 47. 5 筑波新大学 (仮設) など 42 機関を閣議決定
昭 48. 10 筑波大学設置
昭 50. 4 社会工学系発足
社会工学研究科 計量計画学専攻 (博士課程) 発足
昭 51. 4 経営・政策科学研究科 経営・政策科学専攻 (修士課程) 発足
昭 52. 4 第三学群社会工学類発足
環境科学研究科 (修士課程) 発足
昭 53. 4 社会工学研究科計量計画学, 都市・地域計画学専攻 (博士課程) 発足
昭 54. 4 社会工学研究科経営工学専攻 (博士課程) 発足
昭 56. 3 社会工学類第一回生卒業
昭 58. 4 第三学群国際関係学類発足
平 1. 4 経営・政策科学研究科 経営システム科学専攻 (夜間修士課程, 大塚地区) 発足
平 4. 4 国際政治経済学研究科 (博士課程) 発足
平 8. 4 経営・政策科学研究科 企業科学専攻 (夜間博士課程, 大塚地区) 発足
平 9. 4 社会工学研究科 計量ファイナンス・マネジメント専攻新設,
社会経済システム, システム情報数理, 都市・環境システム専攻に改組再編
平 12. 4 システム情報工学研究科 社会システム工学専攻 (博士課程, 社会経済システム,
システム情報数理, 都市・環境システム分野),
計量ファイナンス・マネジメント専攻 (博士課程) 発足
平 13. 4 ビジネス科学研究科 経営システム学科, 企業法学,
企業科学専攻 (夜間・前後区分制博士課程, 大塚地区),
システム情報工学研究科 リスク工学専攻 (博士課程) 発足
平 16. 3 総合研究棟 B 竣工 (リスク工学専攻の教員 5 名が移転)
平 16. 4 筑波大学が国立大学法人に
システム情報工学研究科が部局化 (人事, 予算, 施設を所掌)
学系は組織評価・企画提言を行なう組織に

- 平 17. 4 社会システム工学専攻（博士課程）が
社会システム工学専攻（前期修士課程）と
社会システム・マネジメント専攻（後期博士課程）に改組
経営・政策科学研究科（修士課程研究科）が
経営・政策科学専攻（前期修士課程）に改組

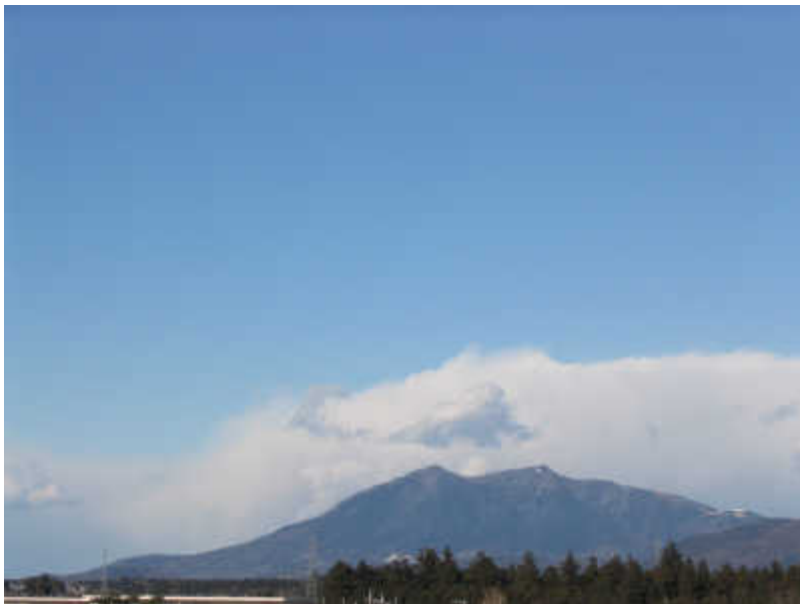
組織構成と専攻および関連組織



関連組織: リスク工学専攻, 産学リエゾン共同研究センター

II. 教員一覽

(平成17年4月～平成18年9月)



教授		
氏名 / 職名	専門分野	研究内容
浅野 哲	計量経済学 ミクロ計量経済学	個人の経済行動のデータから選好のパラメータを推定する手法の開発と応用
石田 東生	都市交通計画 社会基盤施設計画 交通需要予測	都市公共交通政策, 交通施設整備政策の変遷, 交通計画策定プロセスにおける評価とパブリックインボルブメントの可能性と方法
大澤 義明	都市計画 地域科学	立地論, 地域的競争, 投票と地域計画
大村 謙二郎	都市計画 都市計画史	土地利用計画, 計画制度, 都市計画史
小場瀬 令二	都市環境デザイン	環境共生住宅, 地域重視型住宅, フィンランドの都市計画, まちづくりとワークショップ
金澤 雄一郎	統計学 データ解析	一般化線形モデル, 欠損値を含んだデータの解析
金子 守	ゲーム論 認識理論 理論経済学	ゲーム論の基礎と応用, 認識と経験, 住宅市場
岸本 一男	数理工学	数理ファイナンス, デジタル幾何, 数理政治学
香田 正人	システム科学 応用数理解析 データマイニング工学	システム最適化, 感度解析, ニューラル・ネットワーク, 機械学習等の理論的研究と, それらの技術のデータマイニングや発見科学への応用
腰塚 武志	都市工学 積分幾何学	都市の物的構造を数理的に明らかにすること, 積分幾何とその応用, 移動からみた都市構造の分析
佐藤 亮	経営システム工学 システム科学	経営情報システム, 離散事象システム, ビジネスプロセス工学, 一般システム理論
庄司 功	応用時系列解析	ダイナミカルシステムモデルの推定
住田 潮	確率過程・応用確率論 情報システム マルチメディア・ネットワーク, ファイナンス, マーケティング, 国際経営比較	確率計算アルゴリズム, 情報通信ネットワークの評価・解析, 日米経営比較, オプション価格の計算法, POS データ解析

教授		
高木 英明	通信ネットワーク 確率モデル 待ち行列理論	マルチメディア情報通信ネットワークの 性能評価モデル
土井 正幸	地域経済学 交通経済学	発展途上国交通経済論, 港湾経済論, 国際 物流論, 開発経済学, 地域経済発展とイン フラストラクチャ整備, を含む
中村 豊	意思決定理論	不確実性下の意思決定の理論的基礎とそ の応用
橋本 昭洋	社会システム 評価・決定論	社会システム分析, 公共部門意思決定, 評 価・決定方法論, 非画一的総合評価
藤井 英次	国際金融論 国際経済学	相対物価・為替レートダイナミックス, 財・資本市場の国際統合
藤原 良叔	組合せ理論とその応用	組合せ理論 / 離散数学とその情報科学や 統計学への応用
星野 靖雄	経営管理論 経営財務論 国際経営論	企業合併の計量分析, 合併企業の行動分 析, 日本的経営論
松田 紀之	認知心理学 情報デザイン	感性的判断支援と分析, ブランドイメー ジ, リスク認知, セマンティックインター フェイス
焼田 党	マクロ経済学 公共経済学	マクロ経済モデルと税, 公共支出など政 策効果の研究
山本 芳嗣	数理計画	均衡点問題とそのアルゴリズム, 大域的 最適化
吉田 あつし	都市経済学 空間統計学 応用計量経済学 医療経済学	標準雇用大都市圏の形成と集積の経済, 地 域間交易の経済統計モデル, 空間計量経済 モデルの開発地域医療・介護保険制度と ティプー仮説の検証, 医療保険制度の改 正と医療サービスの需要及び供給の分析
吉田 雅敏	財政学 公共経済学 経済成長論	税, 公共投資などの財政学における基本 問題の研究

助教授		
氏名 / 職名	専門分野	研究内容
秋山 英三	ゲーム理論 力学系	限定合理性, ゲームにおける時間構造についての研究, 進化ゲーム
有田 智一	地域科学 都市計画	産業集積, 都市・地域政策, 都市計画制度
石井 健一	コミュニケーション 情報社会	海外の日本番組, 情報機器の普及と採用, 移動体通信の利用行動
江口 匡太	労働経済学	労働契約の理論, 労働法の経済分析
太田 充	地域科学 都市経済学 都市計画	空間経済システムの自己組織化及び構造変化
岡本 直久	交通計画 観光計画	社会資本整備のもたらす効果の計測, 観光交通の調査及び需要推計方法
繁野 麻衣子	数理計画 組合せ最適化	組合せ最適化問題に関する算法の開発
鈴木 秀男	応用統計 品質管理	統計的手法と機械学習法の開発, その品質管理と商品企画への応用
TURNBULL, Stephen John	ゲーム論 情報経済 実験経済	インターネット経済(設備・システム組織; 電子商業), オープンソースソフトウェアの経済的環境
高橋 正文	派生証券評価 金融リスク管理	金融資本市場の価格評価, 価格変動解析, VaRを中心とする市場リスク管理手法の研究
張 勇兵	分散システム 通信ネットワーク 性能評価	分散システムにおける資源の最適配分, 移動通信システムにおける資源管理, 光ネットワークにおける波長ルーティング及び論理ネットワークの構築
堤 盛人	地理情報科学	空間回帰モデル, 空間内挿, 地理情報システム, 不動産情報管理
永易 淳	国際金融 金融ファイナンス 計量経済	金融資産価格の変動と予測の分析
原嶋 耐治	日本経済論	日本経済の直面している諸課題に関する研究
藤川 昌樹	日本建築史・都市史	日本の近世・近代都市史研究, 農村の建築ストックに関する研究

助教授		
三橋 平	マクロ組織行動論	組織間関係と組織バウンダリー
繆 瑩	組合せ論、離散数学 符号理論、暗号理論、通信 方式	情報通信や情報セキュリティのための組 合せ論的手法の開発
吉瀬 章子	数理計画 オペレーションズ・リサー チ	線形・非線形最適化問題に対する効率の よい算法の開発
吉野 邦彦	リモートセンシング 地域環境工学	衛星リモートセンシングデータによる土 地被覆・土地利用解析, 地表面の方向性分 光反射特性の解析とモデル化
渡辺 俊	建築・都市計画 設計学	マルチメディア社会における都市計画・ 建築計画, 知的設計支援システムの設計・ 開発
渡辺 真一郎	組織行動論	組織における人間行動を規定する状況要 因と心理学的個人差要因の間の相互作用 過程に関する研究

講師		
氏名 / 職名	専門分野	研究内容
有馬 澄佳	コンピューターデバイス 生産管理 オペレーション管理	半導体生産システム管理, サプライチェーンマネジメント, ロジスティクス, PLM など
石川 竜一郎	ゲーム理論 ミクロ経済学	意思決定における認識の役割, 経験による社会観の形成, 非対称情報下の市場分析
上市 秀雄	意思決定論 認知心理学 社会心理学	意思決定における個人差, 感情が意思決定に及ぼす影響
大久保 正勝	マクロ経済学 計量経済学	異時点間の消費決定に関する実証研究, 時系列計量経済学の応用
奥島 真一郎	環境経済学 政策分析	環境・エネルギー政策分析, 不平等分析, 分解手法の開発
後藤 順哉	数理計画 (連続最適化) 金融最適化	数理計画の金融への応用 & 解法の研究 大域的最適化
近藤 文代	時系列解析 統計解析 マーケティングデータ分析	ビジネスにおける時系列データ解析および解析手法の開発
斎尾 直子	建築計画 都市・農村計画	小学校 - 大学と生涯学習施設等の地域拠点施設計画, 都市・農村の居住環境整備のための地域社会計画
新谷 由紀子	科学技術政策	産学連携研究, 技術移転論, 研究と倫理, 知的財産とその権利主体
八森 正泰	離散数学 組合せ論	トポロジー的組合せ論, 離散数学におけるトポロジー的手法, およびその応用
原田 信行	中小企業経済学 計量経済学	中小企業の動態および政策に関する理論・実証分析, 日本経済・産業の実証分析, 計量経済学
藤井 さやか	都市計画 まちづくり法制 住環境整備	都市計画制度の体系的運用方策の検討, 地区レベルのまちづくりに関する研究
水野 誠	マーケティング 消費者行動	消費者選好の相互作用と進化, 長期的視点から見たマーケティング環境と戦略
山鹿 久木	都市経済学 計量経済学	都市住宅, 交通混雑, 都市間環境格差の経済分析

講師		
吉田 謙太郎	環境経済・政策学 政策評価論	環境の経済評価, 環境政策の経済分析, 食 品安全性と消費者行動
吉田 友彦	住環境整備 都市計画	既成市街地の整備手法の開発, 基盤整備 事業と自治体住宅政策の連携, 外国人居 住と基盤整備事業の関係
渡邊 直樹	産業組織論 ゲーム理論	R&D, 特許ライセンス, 提携形成, 交渉, 流通などのミクロ経済分析, 動学的産業 構造の理論・実証分析

III. 研究活動



III-1 科学研究費・学内プロジェクト

科学研究費補助金一覧表

研究種目	氏名	研究課題
萌芽研究	中村 豊	満足化原理にもとづく限定合理的意思決定の公理論的基礎とその応用に関する研究
萌芽研究	金子 守	社会経済状況における役割と行動様式：他者の心の経験からの理解
萌芽研究	斎尾 直子	現代農村地域社会におけるまちづくり活動の機能重視型アソシエーション化に関する研究
若手研究（A）	三橋 平	組織衰退・滅亡の過程とそのパターンに関する実証研究
若手研究（B）	八森 正泰	単体的複体のトポロジ的組合せ論とグラフの非巡回的向き付け上の最適化問題の研究
若手研究（B）	吉田 謙太郎	地方環境税導入のための効率的な意思決定支援手法の研究
若手研究（B）	大久保 正勝	家計の選好パラメータの推定とその規定要因に関する実証研究
若手研究（B）	柳原 宏和	共分散構造モデルにおける情報量規準を用いたモデル選択法とその非正規性の影響
若手研究（B）	後藤 順哉	パラメータの推定誤差を考慮したCVaR最小化に基づく金融リスク制御
若手研究（B）	江口 匡太	解雇法制における契約の不完備性と社会規範形成の研究
若手研究（B）	山鹿 久木	空間統計学や地理情報システムを応用した集積の経済・不経済の測定
若手研究（B）	原田 信行	中小企業の資金調達環境と政策のあり方
若手研究（B）	堤 盛人	我が国の測量業の特徴と今後のあり方に関する研究
若手研究（B）	吉田 友彦	首都圏郊外部における放棄住宅地の環境管理に関する基礎的研究

研究種目	氏名	研究課題
特別研究員奨励費	藤井 さやか	建替を要する老朽化マンションに対する諸対策の検討
特別研究員奨励費	藤川 昌樹 DENG, Y.	伝統的都市空間の変容過程に即した保存・整備手法に関する日中比較研究
特別研究員奨励費	横張 真 DUCOM, Estelle	郊外ランドスケープと都市構造に関する日仏間の比較研究
基盤研究（S）分 担	秋山 英三	グローバル公共財としての地球秩序に関するシミュレーション分析
基盤研究（A）分 担	腰塚 武志	都市内・都市間交通網と公共施設配置に関する数理的ならびに実証的研究
基盤研究（B）分 担	上市 秀雄	進路意思決定における認知・感情過程のモデル化
基盤研究（B）分 担	江口 匡太	倒産をめぐる法制度の経済分析
基盤研究（B）分 担	斎尾 直子	都市環境再生を目標とした大学と地域の持続的連携計画・マネジメントに関する研究
基盤研究（C）代 表	上市秀雄	「逸脱行動が生起するプロセスと矯正方法に関する研究」
基盤研究（C）代 表	藤井英次	金融政策・インフレ環境の変化と為替レート of 物価浸透率
基盤研究（C）分 担	藤川 昌樹	紀ノ川との関係からみた宿場町橋本の建築史的・都市的研究
基盤研究（C）分 担	斎尾 直子	環境配慮型大学キャンパス・マスタープラン創出における都市政策との連携に関する研究
厚生労働科学研究費	白波瀬佐和子	少子高齢社会の社会経済的格差に関する国際比較研究

III-2 受託研究・奨学寄付金

一般受託研究受入一覧表

	担当者	研究期間	研究題目	委託機関
1	吉田 あつし	17.4.1 ~ 18.3.31	医療システムと倫理 (医療システムと医療 専門家組織、保険者、 民間保険機関の役割)	独立行政法人 日本学 術振興会
2	高木 英明	17.4.1 ~ 17.9.30	IMT-2000 の高度化及 びその後継システムに おける所要周波数帯域 幅算出方法に関する研 究	モバイルITフォーラ ム
3	横張 真	17.8.1 ~ 18.3.10	都市 - 農村対流にとも なう水田ビオトープの 整備と維持管理	独立行政法人 農業工 学研究所
4	石田 東生 岡本 直久 堤 盛人	17.8.16 ~ 18.2.28	平成17年度 技術革新 と需要変化を見据えた 交通部門の CO2 削減 中長期戦略に関する研 究(リードタイムを考 慮した対策技術導入の 効果と政策手段に関す る研究)	独立行政法人 国立環 境研究所
5	大村 謙二郎 有田 智一	17.9.1 ~ 18.3.17	日立市における郊外戸 建て住宅地の再生・再 編のための実態把握等 調査業務	財団法人国土技術研 究センター
6	吉田 友彦	17.9.1 ~ 18.3.17	木更津市における郊外 戸建て住宅地の再生・ 再編のための実態把握 等調査業務	財団法人国土技術研 究センター

共同研究受入一覧表

	担当者	研究期間	研究題目	委託機関
1	有馬 澄佳 住田 潮	17.9.21 ~ 18.3.31	半導体装置の故障診断 および予測に関する研 究	株式会社デュラシス テムズ

奨学寄付金一覧表

	研究担当者	研究題目	寄附者
1	住田 潮	「グローバル教育に関する研究」に対する研究助成	株式会社ソシオテック 研究所
2	大澤 義明	「つくばクレオスクエアの来店客調査研究」に対する研究助成	筑波都市整備株式会社
3	焼田 党	「少子高齢化社会における公共資本蓄積」に対する研究助成（財団法人学術振興野村基金 2005 年度研究プロジェクト助成）	焼田 党 （原寄附者：財団法人学術振興野村基金）
4	香田 正人	「販売面での顧客セグメンテーションに関する研究」に対する研究助成	株式会社ファンケル
5	住田 潮	「グローバルMBA・MOT教育の研究」に対する研究助成	株式会社ソシオテック 研究所
6	永易 淳	「投資家の情報量が株価ボラティリティーに与える影響」に対する研究助成（財団法人日本証券奨学財団 平成 17 年度研究調査助成）	永易 淳 （原寄附者：財団法人日本証券奨学財団）

	研究担当者	研究題目	寄附者
7	三橋 平	「海運産業に関する研究」に対する研究助成	Norwegian School of Management BI
8	大澤 義明	「市町村単独補助金事業の見直し政策に関する研究」に対する研究助成（財団法人日本証券奨学財団 平成17年度研究調査助成）	大澤義明 （原寄附者：財団法人日本証券奨学財団）
9	住田 潮 山本 芳嗣 後藤 順哉	「銀行業務におけるさまざまな最適化問題についてのアドバイザー」に対する研究助成	みずほ第一フィナンシャルテクノロジー株式会社
10	石田 東生	「シーニックバイウェイ北海道の団体活動が関係者間の協働と意識に与えた影響に関する研究」に対する研究助成	社団法人 北海道開発技術センター

III-3 ファカルティ・セミナー

回	年月日	報告者	所属	テーマ
1	2005.4.5	秋吉貴雄 (古川俊一)	熊本大学大学院社会文化科学研究科助教授	政策変容の動態過程：航空輸送産業における規制改革を事例として
2	2005.4.18	饗庭伸 (大澤義明)	東京都立大学工学研究科早稲田大学芸術学校都市デザイン(兼務)	都市をたたむ都市計画技術の展望
3	2005.4.18	藤井さやか (大澤義明)	日本学術振興会 特別研究員 P D 筑波大学大学院システム情報工学研究科	地域らしさを実現する都市計画制度の体系的運用方針の検討
4	2005.4.20	谷口綾子 (大澤義明)	日本学術振興会 特別研究員 P D 東京工業大学土木工学科	公共政策における社会心理学的アプローチ
5	2005.4.20	張 陽 (大澤義明)	東北大学大学院情報科学研究科助手	中国における都市の失業問題と土地利用
6	2005.4.22	中垣俊之 (山本芳嗣)	北海道大学助教授	不思議なアメーバ 生物粘菌に学ぶ賢い計算法
7	2005.6.16	田中隆一 (江口匡太)	大阪大学社会経済研究所(講師)	Working Mother as a Role Model for Daughters: An Empirical Study of Human Capital Accumulation
8	2005.6.23	松村敏弘 (江口匡太)	東京大学社会科学部研究科(助教授)	Privatization Waves
9	2005.6.30	村田安寧 (江口匡太)	日本大学大学院総合科学研究科(助教授)	General equilibrium models of monopolistic competition: CRRRA versus CARA
10	2005.7.5	大垣昌夫 (大久保正勝)	オハイオ州立大学教授	Structural Spurious Regressions and A Hausman-type Cointegration Test
11	2005.7.14	菅原 琢 (金子 守)	東京大学大学院法学政治学研究科博士課程3年生	日本政治における農村バイアス

回	年月日	報告者	所属	テーマ
12	2005.7.28	井上朋紀 (石川竜一郎)	慶應義塾大学 大学院経済研究科 研究生	Indivisible commodities and nonemptiness of the wesk core
13	2005.7.25	木谷 忍 (横張 真)	東北大学大学 院農学研究科	地域づくりのための戦略的ゲームング
14	2005.7.25	宮城俊彦 (横張 真)	岐阜大学地域 科学部	交通ネットワーク均衡問題への確率的仮想プレイ ゲームと強化学習の応用
15	2005.7.25	森野美德 (横張 真)	日経広告研究 所	社会変革の羅針盤となるアカデミズム
16	2005.7.26	味水佑毅 (吉田あつし)	一橋大学大学 院商学研究科 講師	道路整備における受益者負担のあり方
17	2005.7.26	阿部直也 (吉田あつし)	(独) 国立環境 研究所循環型 社会形成推進 廃棄物研究セ ンターめぐる 環型社会形成 システム研究 室 NIES アシ スタントフェ ロー	地域公共政策としての環境政策の分析評価～空間 性、時間性、自律性に着目して～
18	2005.7.26	鯨島裕輔 (吉田あつし)	首都大学東京 都市教養学部 経営学系研究 員	公共財供給メカニズムへの不参加問題に対する解 決案
19	2005.7.26	町北朋洋 (吉田あつし)	一橋大学経済 研究所経済制 度 研究 セ ン ター 研究員	Is Learning by Migrating in Megalopolis Really Important?
20	2005.8.24	小谷浩示 (吉田あつし)	コーネル大学 大学院 農業 経済学研究科 資源環境経済 学専攻	“ Real options ”and “ behavioral and experimen- tal economics ”:The application of the two ap- proaches in environmental and public economics
21	2005.8.24	奥島真一郎 (吉田あつし)	日本学術振興 会特別研究員 PD (環境 経 済学)	環境政策の一般均衡分析
22	2005.9.15	神戸伸輔 (江口匡太)	学習院大額経 済 学 部 (教 授)	Subjective Evaluation in the Agen'cy Contract and the Reputatation of the Principal
23	2005.9.8	石川竜一郎 (江口匡太)	筑波大学大学 院情報工学研 究科 講師	Revision of Beliefs with Perceived Experiences in Info-memory Protocols
24	2005.9.26	Yu Xia (ユー シャ) (吉瀬草子)	統計数理研究 所特別研究員	The Q Method for Symmetric Cone Program- ming

回	年月日	報告者	所属	テーマ
25	2005.9.22	渡邊直樹 (金子 守)	一橋大学大学院 経済学研究科	Stable Profit Sharing in Patent Licensing: General Bargaining Outcomes (joint with Shigeo Muto)
26	2005.9.29	玉井義浩 (江口匡太)	神奈川大学経済学部 (助教授)	ナイト流不確実性の下でのエージェンシー問題
27	2005.10.13	桃田朗 (江口匡太)	大阪府立大学経済学部 (助教授)	A Population-Macroeconomic Growth Model for Developing Countries: Towards the Achievement of Development Goals
28	2005.10.27	北川章臣 (江口匡太)	東北大学大学院経済学研究科 (助教授)	Endogenous Fertility, Twin Inefficiencies, and Optimal Design of Social Social Security
29	2005.11.17	劉慶豊 (吉田あつし)	京都大学大学院経済研究科 博士後期課程	Applications of Empirical Likelihood Estimation- Methods for Financial Time-Series data
30	2005.12.8	稲倉典子 (永易淳)	筑波大学大学院情報工学研究科	Deposit Insurance and Depositor Discipline: Direct Evidence on Bank Switching Behavior in Japan
31	2005.12.15	本庄裕司 (原田信行)	中央大学商学部 (助教授)	An empirical analysis of the initial public offering intention: evidence from start-up firms in Japan
32	2005.12.1	山本芳嗣 (石川竜一郎)	筑波大学情報工学研究科 (教授)	Impossibility and Possibility Theorems for social choice functions on incomplete preference profiles
33	2005.12.12	藤井朋樹 (石川竜一郎)	シンガポール経営大学経済社会科学部 (講師)	Estimation of poverty rates for disabled people: an application to Cambodia
34	2006.2.16	飯塚敏晃 (吉田あつし)	青山学院大学大学院 国際研究科 助教授	The effects of Direct-to-Consumer Advertising in the Prescription Drug Markets
35	2006.3.20	Joachim Rosenmuller (金子 守)	Institute of Mathematical Economics University of Bielefeld	A Superadditive Solution

III-4 ディスカッション・ペーパー

2005 年度 社会工学系 DP(Discussion Paper Series) 一覧表

No.	著者	タイトル	登録月
No.1114	Jun-ya GOTOH and Yuichi TAKANO	The Downside Risk-Averse News-Vendor Minimizing Conditional Value-at-Risk	2005.4
No.1115	Yoshitsugu MAMOTO and Daisuke ZENKE	Outer Approximation Method for the Minimum Maximal Flow Problem	2005.4
No.1116	Jun NAGAYASU	Empirical Analysis of the Exchange Rate Channel in Japan	2005.4
No.1117	Jun NAGAYASU	Determinants of the Tokyo Stock Price Index: Searching for Explanations of the Depression	2005.4
No.1118	Tunglun Tsai, Ryo SATO, Takao TER- ANO	A Genetic Algorithm with MGG and Demand Crossover to Solve Dynamic Flexible Scheduling Problem	2005.5
No.1119	金盛長 (金子守)	三途が浦：社会正義について (前編)	2005.6
No.1120	Mário Henrique OGASAVARA, Yasuo HOSHINO	The Impact of Ownership, Internalization, and Entry Mode on Japanese Subsidiaries' Performance in Brazil	2005.6
No.1121	Mário Henrique OGASAVARA, Yasuo HOSHINO	Implications of Firm Experiential Knowledge and Sequential Investment on Japanese Subsidiaries' Performance in Brazil	2005.6
No.1122	Junya GOTOH, Ushio SUMITA, and Hui JIN	On Evaluation of Dynamic Behavior of Modified Ornstein-Uhlenbeck Processes with Various Boundaries	2005.6
No.1123	鈴木秀男、水野誠、住 田潮、佐治明	CRMのための優良顧客識別手法の特性評価と財務効果	2005.6
No.1124	Mong Shan Ee and Seizo IKUTA	A Switching Model of Dynamic Asset Selling Problem -the cose of multiple homogeneous assets- ?	2005.7
No.1125	Mizue OHE, Nobuko IGAKI, Ushio SUMITA	Structural Sensitivity Analysis of Voting Behaviors in Public Referendum VIA Simulation	2005.7
No.1126	Nobuyuki HARADA	Video Game Demand in japan: A Household Data Analysis -Revised	2005.7
No.1127	Masafumi TSU- RUTANI,Masashi UMEZAWA and Yoshitsugu YA- MAMOTO	Impossibility and Possibility Theorems for Social Choice Function with Restricted Alternative Set	2005.7

No.	著者	タイトル	登録月
No.1128	Akihiro HASHIMOTO and Shoko HANEDA	Measuring the Change in R&D Efficiency of the Japanese Pharmaceutical Industry	2005.7
No.1129	HARADA Nobuyuki	Which Firms Exit and Why? An Analysis of Small-Firm Exits in Japan	2005.9
No.1130	LIN Yedong and YOSHISE Akiko	A Homogeneous Model for Mixed Complemen- tarity Problems over Symmetric Cones	2005.9
No.1131	ALAM Jennifar and NAGAYASU Jun	Prediction of Stock Returns Using the Artificial Neural Network: Evidence from Developed and Developing Countries	2005.9
No.1132	NAGAYASU Jun	Putting the Dividend-Praice Ratio Under the Mi- croscope	2005.9
No.1133	SUZUKA Ayami, MIYASHIRO Ryuhei, YOSHISE Akiko and MATSUI Tomomi	Dependent Randomized Rounding to the Home- Away Assignment Problem in Sports Scheduling	2005.9
No.1134	EE Mong Shan	Asset Selling Problem with an Uncertain Dead- line	2005.10
No.1135	川西垂矢子, 佐藤亮, 住 田潮	計画情報共有システムを用いるサプライチェーン 管理の構造的特徴について	2005.10
No.1136	MIZUNO Makoto, SAJI Akira, SUMITA Ushio and SUZUKI Hideo	Optimal Threshold Analysis of Segmentation Methods for Identifying Target Customers	2005.11
No.1137	EE Mong Shan and IKUTA Seizo	Optimal Stopping Problem with Quitting Offers and Search Cost	2005.12
No.1138	JIN Hui, GOTOH Jun-ya and SUMITA Ushio	A New Approach for Computing Option Prices of the Hull-White Type with Stepwise Reversion and Volatility Functions	2006.1
No.1139	KISHIMOTO Kazuo, GOSHI Akinori, MAEDA Koichi, YA- MAMOTO Mitsuyo and KUBO Takahiro	Downsian Positions of Parties and Districts from the Numbers of Votes with Examples of Japanese Congressional Elections 1983 – 2004	2006.1
No.1140	GOTOH Jun-ya and TAKEDA Akiko	Conditional Minimum Volume Ellipsoid with Ap- plications to Subset Selection for MVE Estimator and Multiclass Discrimination	2006.1
No.1141	IWATA Shinichiro and YAMAGA Hisaki	Rental Externality,Tenure Security,and Housing Quality	2006.1
No.1142	IWATA Shinichiro and YAMAGA Hisaki	Resale Externality and Used Housing Market	2006.1
No.1143	KANEKO Mamoru and KLINE Jude	Inductive Game Theory: A Basic Scenario	2006.1
No.1144	SUZUKA Ayami, MIYASHIRO Ryuhei, YOSHISE Akiko and MATSUI Tomomi	The Home-Away Assignment Problems and Break Minimization/Maximization Problems in Sports Scheduling	2006.1

IV. 各教員研究・教育活動



教授

浅野 哲

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) “Some Empirical Evidence on Demand System and Optimal Commodity Taxation,” Japanese Economic Review, Volume 57, March 2006 (with Takashi Fukushima)

(2) 学会活動

- 1) レフェリー Japanese Economic Review, Economic Journal

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：計量経済学 I、計量経済学特論
社会工学類：計量経済学、線形代数 II

(2) 他大学における講義

- 1) 国際基督教大学非常勤講師 社会科学と統計分析、社会統計入門

III. 社会的活動

- 1) ブラジル応用経済研究所との共同研究

石田 東生

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読付き論文

- 1) Deployment of Intelligent Transportation Systems in Countries with Developing and Transitional Economies, TRANSPORTATION RESEARCH RECORD NO.1886, pp.1-9, 共著 (Toshiyuki Yokota, Haruo Ishida, and Kotaro Kato), 2005 年

ii) その他論文

- 1) いろいろな「みち」と道路政策, 道路行政セミナー, 2005 年 6 月号, No.183, pp.1-4, 単著, 2005 年
- 2) 評価の時代に想う, 月刊建設, 2005 年 9 月号, Vol.49, pp.4-5, 単著, 2005 年
- 3) 大都市圏における道路プロジェクトの挑戦と課題 東京外環と日本橋プロジェクト, 道路建設, 2006 年 3 月号, NO.694, pp.9-11, 単著, 2006 年

iii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) 「読売シンポジウム・地球温暖化防止と道路交通を考える」基調講演, パネルディスカッション, 読売シンポジウム・地球温暖化防止と道路交通を考える 7/4 開催, 読売新聞, 2005 年 7 月 29 日付, 24-25 面, 2005 年
- 2) PI の現状と課題 (平成 17 年度 専門課程 道路環境研修テキスト), 国土交通省国土交通大学校, 2005 年 9 月 15 日講義, 2005 年
- 3) 「CO₂削減と道路・交通・都市政策」基調講演・パネルディスカッション, 読売シンポジウム「地球温暖化防止と道路交通 - CO₂削減 関西からの再発信 - 」11/13 開催, 読売新聞大阪本社, 2005 年 12 月 5 日付, 16 面, 2005 年

(2) 学会活動

- 1) アジア交通学会理事

(3) 研究助成など

- 1) 平成 18 年度科学研究費 基盤研究 (B) No.18360241 「乗用車の長期的走行再現シミュレーションの開発と代替燃料車普及戦略への応用」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：交通計画特論

環境科学研究科：国土・交通計画論

社会工学類：都市計画実習, 都市計画事例講義および実習, 社会基盤政策の未来演習, 社会基盤整備と地域・国土計画

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) システム情報工学研究科社会システム工学専攻長
- 2) 筑波大学交通安全会理事
- 3) 交通安全対策委員会副委員長

III. 社会的活動

- 1) 国土交通省国土審議会 専門委員
- 2) 国土交通省日本風景街道（シーニック・バイウェイ・ジャパン）戦略会議委員
- 3) 環境省中央環境審議会 専門委員
- 4) 茨城県環境審議会 委員
- 5) 財団法人道路空間高度化機構 理事

大澤 義明

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読付き論文

- 1) Y.Ohsawa and T.Kobayashi(2005): An analytical model to assess the visibility of landmarks. *Geographical Analysis*, 37(3), pp.336-349.
- 2) 小林隆史, 大澤義明 (2005): 日影規制と太陽光発電量. 日本建築学会計画系論文集, 595, pp.133-140.
- 3) 尾崎尚也, 大澤義明 (2005): 人口分布から見た市町村合併における本庁舎位置決定に関する研究. 日本都市計画学会第 40 回学術研究発表論文集, pp.121-126.
- 4) 住谷優友, 大澤義明 (2005): 線形変換による時間地図作成方法. *G I S - 理論と応用*, 13(2), pp.1-10.
- 5) 蓮香文絵, 大澤義明, 切田元, 小林隆史 (2006): 天空率と天空比との関係に関する考察. 日本建築学会計画系論文集, 600, pp.121-127.

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) Y.Ohsawa, N.Ozaki and F.Plastria(2005): Equity-efficiency bicriteria location models with squared Euclidean distances. 都市のORサマーセミナー, (名古屋).
- 2) Y.Ohsawa, N.Ozaki and F.Plastria(2005): Equity bicriteria location models using line tessellation, The second International Symposium on Voronoi Diagrams in Science and Engineering, Hanyang University, (Seoul, Korea).
- 3) 大澤義明 (2005): ゴミ焼却場の立地, 広域化, 景観に関する理論的研究, 鹿島学術振興財団第 28 回研究発表会, (東京).
- 4) Y.Ohsawa, N.Ozaki and F.Plastria(2005): Equity-efficiency bicriteria location models with squared Euclidean distances. 第 19 回応用地域学会研究発表大会, (浦安).
- 5) 大澤義明 (2006): 連続空間上の二目的最適配置モデル, 政策研究大学院大学セミナー, (東京).

(2) 学会活動

- 1) オペレーションズ・リサーチ学会フェロー
- 2) オペレーションズ・リサーチ学会機関誌編集委員
- 3) オペレーションズ・リサーチ学会代議員
- 4) 応用地域学会運営委員
- 5) 応用地域学研究編集委員
- 6) 査読：都市計画学会学術発表会，日本建築学会計画系論文誌，地理情報システム学会論文誌，応用地域学研究，オペレーションズ・リサーチ学会機関誌，国際都市計画シンポジウム 2005，Annals of Operations Research.

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費「欧州における間接税競争・税調和政策の実態調査」，基盤研究 B，研究代表者．
- 2) 平成 17 年度財団法人日本証券奨学財団「市町村単独補助金事業の見直し政策に関する研究」，研究代表者．
- 3) 「つくばクレオスクエアの来店客調査研究」に対する研究助成，筑波都市整備株式会社．

(4) その他

- 1) 地理情報解析サミット in 筑波・幹事（2005 年 12 月，筑波大学）
- 2) 2005 年度都市の OR ウィンターセミナー・幹事（2006 年 1 月，筑波大学）

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：地域計量理論

環境科学研究科：立地環境論，環境科学 III

社会工学類：都市計画事例講義及び実習，都市計画マスタープラン策定実習，都市解析，微積分 I，都市・地域・環境を考える，社会工学特設講義

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 全学：研究戦略室員，高大連携委員会委員
- 2) システム情報工学研究科：カリキュラム委員会委員長，FD 委員会委員長，新

カリキュラム TF

- 3) 社会工学類：クラス担任，カリキュラム委員

III. 社会的活動

- 1) 人事院試験専門員
- 2) 茨城県総合計画審議会部会専門委員
- 3) 茨城県環境影響評価審査会委員
- 4) 茨城県スーパー・サイエンス・ハイスクール運営指導委員会委員
- 5) 取手市補助金等検討委員会委員長
- 6) 取手市行政改革推進委員会会長
- 7) 守谷市都市計画審議会副会長

大村 謙二郎

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) 「都市再開発法制定時前後の高度成長期に取り組まれた再開発ビルの現状と課題」、『日本不動産学会誌』共著（小俣元美、大村謙二郎、有田智一）2005、19(1)、pp.111-121
- 2) 「住宅地における敷地狭小化に対する規制誘導手法に関する研究-江戸川区を事例として - 」共著（鶏内久之、大村謙二郎、有田智一）『都市計画論文集』No.40-3,2005,pp.433-438
- 3) 「公的な大規模跡地利用方法の決定過程に関する研究 - 目黒区・世田谷区東京都立大学跡地を事例として」共著（千葉明日香、大村謙二郎、有田智一）『都市住宅学』No.51,2005,pp.35-40
- 4) 「東京都区部の既成市街地における保全型地区計画制度導入実態と課題」共著（小川雷二、大村謙二郎、有田智一）『都市住宅学』No.51,2005,pp.41-46
- 5) “ Factors that affects self-build housing in Nairobi, Kenya ”, P.K.Kamau, K.Omura, T.Arita, 『都市住宅学』No.53,2006,pp.78-85
- 6) 「ドイツの中心市街地活性化」『都市計画セミナー：中心市街地再生にむけた、まちづくり戦略をとらえる』Vol.29,2005 年度,pp.I-107 - 144

(2) 学会活動

- 1) 日本都市計画学会評議員
- 2) 日本都市計画学会国際委員会委員
- 3) 都市住宅学会副会長
- 4) 都市住宅学会誌「都市住宅学」編集委員長

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：比較都市計画史特論

環境科学研究科：都市環境計画原論

社会工学類：アメニティ創造のまちづくり実習，土地利用・地区整備計画、現代まちづくりの理論と実践

総合科目：都市・地域・環境を探索

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 社会工学研究科施設委員
- 2) 環境科学研究科論文審査委員
- 3) 社会工学類運営委員
- 4) 社会工学系施設委員

III. 社会的活動

- 1) 茨城県開発審査会委員
- 2) 茨城県入札監視委員会委員
- 3) 茨城県まちづくり顕彰事業ほう賞審査委員会委員
- 4) つくば市都市計画審議会会長
- 5) 東京都住宅政策審議会委員
- 6) 江戸川区都市計画審議会委員
- 7) 板橋区住宅対策審議会会長
- 8) 川崎市建築等紛争調停委員会委員
- 9) 2005年10月22日 つくば市国際会議場で行われた茨城県まちづくりシンポジウムで「持続可能な次世代につなげるまちづくり」と題する基調講演を行い、あわせて行われたパネルディスカッションのコーディネーターを行った。
- 10) 2005年10月27日 韓国ソウルの漢陽大学主催の国際シンポジウムで「都市縮小化時代の日本における都市再生政策」と題して講演を行った。
- 11) 2006年1月19日 日本都市計画学会主催の第29回都市計画セミナーにおいて「ドイツの中心市街地活性化」と題する講演を行った。
- 12) 2006年3月17日 The Japan-Sweden Research Seminar on Urban Sustainability において "The Regeneration Policies in an Age of Shrinking Cities in Japan" と題する発表を行った
- 13) 2006年3月28日 さいたま2005まちプランシンポジウムで「成熟社会の都市づくり」と題して、基調講演を行った。また、あわせて行われたパネルディスカッションのコーディネーターを行った。

小場瀬 令二

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) つくばスタイル：新たな都市-田園居住の可能性と課題を探る-資料集 p75?80 / 2005.11 / 都市住宅学会
- 2) 地区計画のある遠隔郊外住宅地の動向に関する研究/高見沢邦郎先生退官記念論文

(2) 学会活動

- 1) 建築学会関東支部都市計画研究部会幹事

(3) 海外調査

- 1) 2005.6～7 チェコにおける景観ワークショップの開催
- 2) 2005.12 日本オースロリアの公園に関する研究交流調査

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：都市環境・景観論特論

環境科学研究科：環境科学総合演習，環境科学3

社会工学類：住まいと居住環境の計画、都市空間の歴史、まっつくりと空間設計の歴史と思想、社会工学実習、空間演習、アメニティ創造のまちづくり実習

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 設置委員会 キャンパスリニューアル WG、その他多数

(3) 他大学における講義

- 1) 合同広報委員長 常磐大学非常勤講師

III. 社会的活動

- 1) 茨城県の景観委員会委員
- 2) 水戸市景観アドバイザー、
- 3) つくば市建築審査会会長
- 4) 茨城県エコフロンティア環境審査委員

金澤 雄一郎

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) On the relationships among organizational family supportiveness, work-family conflict, and turnover intention ? Evidence on Japanese men, the International Journal of Human Resources Development and Management, to appear.

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) Do family supportive organizational policies affect Japanese men's work-family conflict and turnover intention?, American Psychological Society, 17th Annual Convention, Los Angeles, CA May 26-29, 2005.

(2) 学会活動

- 1) Psychometrika レフェリー

(3) 研究助成など

- 1) 科研費 (C)(2) 「ランダム係数ロジットモデルを用いたアメリカ自動車需要の推定とマーケティング的考察」
- 2) 学内プロジェクト助成研究 (A) 「統計的領域推定における新しいリスク評価と検定論への応用」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：統計学特論 I、統計学特論 II

経営・政策科学研究科：統計学 II、データ解析

社会工学類：統計学 II、データ解析

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) システム情報工学研究科社会システム・マネジメント専攻 就職委員会委員長、オリエンテーション委員会委員長
- 2) 社会工学類 就職委員会委員長

III. 社会的活動

- 1) 大学基準協会審査委員
- 2) JABEE 審査委員
- 3) 日本テクノセンター講演者

金子 守

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) Mamoru Kaneko, Tamon Ito and Yu-ichi Osawa, Duality in comparative statics in rental housing markets with indivisibilities, Journal of Urban Economics 59 (2006), 142-170.
- 2) 金子守『ゲーム論家の酔夢譚：詩の饗宴』勁草書房 2006 年、204 ページ

(2) 学会活動

- 1) Associate Editor for Mathematical Social Sciences
- 2) Associate Editor for Social Choice and Welfare
- 3) Associate Editor for Economic Theory
- 4) Associate Editor for Knowledge, Rationality & Action

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費 萌芽研究：「社会経済状況における役割と行動様式：他者の心の経験からの理解」平成 17 年 100 万、18 年 100 万
- 2) 基盤研究 B：「帰納的ゲーム理論と限定合理性：経験からの社会観形成と行動決定」平成 18 年 370 万、19 年 260 万、20 年 260 万

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：ゲーム理論特論

経営・政策科学研究科：ゲーム理論

社会工学類：ゲーム理論、社会経済実習

香田 正人

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) 高畠泰斗、香田正人、顧客セグメンテーションの再考、日本ダイレクトマーケティング学会 NEWS LETTER、第四回全国研究発表大会特集号、pp. 26-32、2005 年 9 月.
- 2) 佐野夏樹、鈴木秀男、香田正人、他、RANSAC を用いた車両運転時のイベント検出、京都大学数理解析研究所講究録 1462、pp. 224-230、2006 年 1 月.

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) 佐野夏樹、鈴木秀男、香田正人、時系列データにおける複数の異常情報の検出、短期共同研究「確率数値解析に於ける諸問題」、京都大学数理解析研究所、2005 年 6 月 29 日.
- 2) 高畠泰斗、香田正人、顧客セグメンテーションの再考、日本ダイレクトマーケティング学会第四回全国研究発表大会報告要旨、pp. 21-23、2005 年 7 月 2 日 .
- 3) M. Koda, “Robust Boosting Methods for Mislabeled Data using Noise,” Chevron Research, March 6, 2006.
- 4) 高島慧、香田正人、周辺密度を用いた One-Class SVM の設計、日本 OR 学会 2006 年春季研究発表会、アブストラクト集、pp. 228-229、2006 年 3 月 15 日 .

(2) 学会活動

- 1) 日本ダイレクトマーケティング学会副会長、DBM 研究部会長
- 2) 日本 OR 学会 IAOR 編集委員会委員長、フェロー
- 3) 編集委員 (Contributing Editor), International Abstracts in OR, IFORS
- 4) 編集委員 (Associate Editor), Journal of Information and Communication Technology, Universiti Utara Malaysia
- 5) 日本ダイレクトマーケティング学会自主研究プロジェクト主査「販売面での顧客セグメンテーション (データマイニングの適用を含めて)」

(3) 研究助成など

- 1) 奨学寄附金 販売面での顧客セグメンテーション（データマイニングの適用を含めて）

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：データマイニング工学特論

経営・政策科学研究科：プロジェクト・マネジメント - 理論と実践

社会工学類：経営工学実習

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 社会システム工学専攻長
- 2) システム情報工学研究科運営委員会委員
- 3) システム情報工学研究科人事委員会委員
- 4) 第三学群運営委員会委員
- 5) 実システム開発指向高度人材育成プログラム（北大連携）運営委員
- 6) 社会システム・マネジメント関連3専攻合同運営委員
- 7) 大学院・学類連携タスクフォース委員長
- 8) 大学院新カリキュラム・タスクフォース委員

佐藤 亮

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) 川西亜矢子, 佐藤亮, 住田潮, “ロジスティクスの計画更新における最適な予実差異反映係数の決定,” 経営情報学会 2005 春季全国研究発表大会予稿集 pp.306-309, 2005.
- 2) Tunghun Tsai, Ryo Sato, Takao Terano: A genetic algorithm with MGG and demand crossover to solve dynamic flexible scheduling problem, Department of Social Systems and Management Discussion Paper Series No.1118, University of Tsukuba, 2005 May.
- 3) 川西亜矢子, 佐藤亮, 住田潮: 計画情報共有システムを用いるサプライチェーン管理の構造的特徴について, Department of Social Systems and Management Discussion Paper Series No.1135, University of Tsukuba, 2005.
- 4) Ryo Sato, “Putting general systems sciences to practical use: Methodological issues, and the case of business process engineering”, Proceedings of the first world congress of Interanational Federation for Systems Reseach (held in Kobe), CD-ROM, 2005.
- 5) Yaghoub Khojasteh Gharamari, Ryo Sato: “Does CONWIP always outperform Kanban system?”, 経営情報学会 2005 秋季全国研究発表大会予稿集 pp.184-187, 2005.
- 6) 川西亜矢子, 佐藤亮, 住田潮: “サプライチェーンの構造的な不確実性”, 経営情報学会 2005 秋季全国研究発表大会予稿集 pp.416-419, 2005.

(2) 学会活動

- 1) 経営情報学会誌編集委員
- 2) (社) 計測自動制御学会システム情報部門システム工学部会運営委員
- 3) WCSS'06 (The First World Congress on Social Simulation, Kyoto, 2007) 国際プログラム委員
- 4) 14th AIS/CMS conference (Buenos Aires, Argentina, February, 2007) 国際プログラム委員

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：システム工学特論

経営・政策科学研究科：情報システム論

社会工学類：経営工学概論、経営情報システム、経営情報システム演習、社会基盤と情報・ロジスティクス産業

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 大学院システム情報工学研究科社会システム工学専攻入試実施委員長
- 2) 社会工学類：授業評価委員長

(3) 他大学における講義

- 1) 横浜国立大学現代 GP「経営学 e ラーニングの開発と実践 -ゲーミングメソッドを基盤として-」評価委員（ERP グループ）

III. 社会的活動

- 1) SAP ジャパン Higher Learning Initiative 委員
- 2) 文部科学省大学設置審議会委員（17年度）

庄司 功

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) Yang, Y., Shoji, I. and Kanehiro, S., (2006), Optimal dividend policy of life insurance company with policyholders' dynamically inconsistent time preferences, *Advances and Applications in Statistics*, 6, 1-15.
- 2) Shoji, I. (2005), Nonparametric estimation of diffusion coefficients from discretely observed data, *The 5th International Conference on Statistical Finance and Financial Engineering*, 一橋大学大学院国際企業戦略研究科.
- 3) Shoji, I. (2005), 拡散過程に関するノンパラメトリック推定について, 第119回 GLOPE ワークショップ, 早稲田大学経済学研究科.
- 4) Shoji, I. (2005), セミパラメトリックモデルを用いたボラティリティの推定, 2005 年度 統計関連学会 連合大会, 広島プリンスホテル.
- 5) Shoji, I. (2006), Volatility estimation of diffusion processes by a semiparametric model, *Waseda Workshop 2006 "Time Series Analysis and Its Related Topics"*, Waseda University International Conference Hall.

(2) 学会活動

- 1) Associate editor: *Advances and Applications in Statistics, Asia-Pacific Financial Markets II*. 教育・業務活動

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：ファイナンスモデル特論

経営・政策科学研究科：金融時系列解析

社会工学類：計量時系列分析, 計量ファイナンス演習

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 社会システム・マネジメント専攻：予算委員

2) 社会工学類：カリキュラム委員

住田 潮

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) “Development of Parametric Simulation Models for Structural Analysis of Voting Behaviors in Public Referendum,” (with M. Ohe and N. Igaki), Sociological Theory and Methods, Vol. 20, No. 2, pp. 157-176, 2005.
- 2) “Structural Sensitivity Analysis of Voting Behaviors in Public Referendum via Simulation,” (with M. Ohe and N. Igaki), Proceedings of International Conference on Business and Information, July 2005, Hong Kong
- 3) “Stochastic Analysis of Number of Corporations in a Market Derived from Strategic Policies of Individual Corporations for Market Entry and Retreat,” (with T. Ise and K. Yonezawa), Journal of Operations Research Society of Japan, Vol. 49, No. 1, pp. 1-18, 2006.
- 4) “Numerical Exploration of Dynamic Behavior of Ornstein-Uhlenbeck Processes via Ehrenfest Process Approximation,” (with J. Gotoh and H. Jin), to appear in Journal of Operations Research Society of Japan
- 5) “On Evaluation of Dynamic Behavior of Modified Ornstein-Uhlenbeck Processes with Various Boundaries,” (with J. Gotoh and H. Jin), Working Paper Series No.1112, 2005, Graduate School of Systems and Information Sciences, University of Tsukuba
- 6) “CRMのための優良顧客識別手法の特性評価と財務効果”(鈴木秀男、水野誠、佐治明と共著)、Working Paper Series No.1123 2005, Graduate School of Systems and Information Sciences, University of Tsukuba
- 7) “Optimal Threshold Analysis of Segmentation Methods for Identifying Target Customers,” (with M. Mizuno, A. Saji and H. Suzuki), Working Paper Series No.1136, 2005, Graduate School of Systems and Information Sciences, University of Tsukuba
- 8) “A New Approach for Computing Option Prices of the Hull-White Type with Stepwise Reversion Function,” (with J. Gotoh and H. Jin), Working Paper Series No.1138, 2005, Graduate School of Systems and Information Sciences, University of Tsukuba

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) 5月21日 最適化とアルゴリズム <未来を担う研究者の集い> 講演『高い志を掲げること - 研究者の夢の在り様 - 』
- 2) 7月14 - 15日 International Conference on Business and Information, Hong Kong “Structural Sensitivity Analysis of Voting Behaviors in Public Referendum via Simulation,” (with M. Ohe and N. Igaki)

(2) 学会活動

- 1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会フェロー
- 2) 日本オペレーションズ・リサーチ学会 機関紙編集委員

(3) 研究助成など

- 1) 文部科学省科学研究費基盤研究C「CRMとインターネット：優良顧客識別アルゴリズムの評価とブラウジング行動解析」
- 2) 奨学寄附金受託研究：「信用リスク制御に関する問題解法及びO Uプロセス吸収壁問題数値解法の開発」(山本芳嗣教授、後藤順哉講師と共同) みずほ第1ファイナンス・テクノロジー株式会社
- 3) 奨学寄附金受託研究：「グローバル教育の研究」ソシオテック研究所
- 4) 奨学寄附金受託研究：「グローバルMBA・MOT教育の研究」ソシオテック研究所

(4) その他

- 1) Best Paper Award, “Structural Sensitivity Analysis of Voting Behaviors in Public Referendum via Simulation,” (with M. Ohe and N. Igaki), International Conference on Business and Information, July 2005, Hong Kong
- 2) 平成17年度データ解析コンペティション社会人の部、最優秀賞(第1位)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：オペレーションズ・リサーチ特論

経営・政策科学研究科：ビジネス戦略

社会工学類：Introduction to Management Science and Engineering、社会基盤と情報ロジスティクス産業(2人で共同担当)、微分積分学II、応用確率論

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) システム情報工学研究科 カリキュラム開発 TF メンバー
- 2) 施設運営委員会メンバー
- 3) 就職委員会 メンバー

(3) 他大学における講義

- 1) 国際基督教大学フランス・プログラム集中講義

III. 社会的活動

- 1) OECD Tri-Logistics Research Project アジア研究部会・委員
- 2) 道路経済研究所 ロジスティクス研究部会・メンバー
- 3) 5月9日 (株)八海クリエイツ 中小企業のビジネス・技術戦略視察
- 4) 5月23日 (株)東邦レオ 中小企業のビジネス・技術戦略視察
- 5) 6月9-10日 (株)デンソ - 幹部研修プログラム講演 “企業経営とファイナンス”
- 6) 7月11-12日 日本能率協会主催 プロフェッショナル・ビジネス・リーダー・コース 主任講師
- 7) 7月7-8日 (株)デンソ - 幹部研修プログラム講演 “IT 戦略と起業家精神”
- 8) 7月19-20日 日本能率協会主催 プロフェッショナル・ビジネス・リーダー・コース 主任講師
- 9) 7月25-26日 日本能率協会主催 プロフェッショナル・ビジネス・リーダー・コース 主任講師
- 10) 8月11-13日 日本能率協会主催 プロフェッショナル・ビジネス・リーダー・コース 主任講師
- 11) 8月31-9月12日 海外技術者研修協会 バングラデシュIT 研修プログラム 主任講師
- 12) 9月13-14日 日本能率協会主催 プロフェッショナル・ビジネス・リーダー・コース 主任講師
- 13) 9月16-17日 (株)豊田通商 次世代経営者コース講演 “異文化マネジメントと起業家精神”
- 14) 10月5日 (株)東芝グループ新任取締役研修 講演 “21 世紀における日本企業の課題”
- 15) 10月6-8日 日本能率協会主催 プロフェッショナル・ビジネス・リーダー・

コース 主任講師

- 16) 10月23-25日 日本能率協会主催 プロフェッショナル・ビジネス・リーダー・コース 主任講師
- 17) 10月29日 (株)東芝経営幹部研修 講演 “21世紀における日本企業の課題”
- 18) 11月4-5日 日本能率協会主催 プロフェッショナル・ビジネス・リーダー・コース 主任講師
- 19) 11月11-12日 (株)豊田通商 次世代経営者コース講演 “企業経営とファイナンス”
- 20) 11月14日 (株)東芝・花王・DNP 3社交流 R&D リーダー革新研修プログラム 講演 “R&D 資源戦略の最前線”
- 21) 11月27-28日 日本能率協会主催 プロフェッショナル・ビジネス・リーダー・コース 主任講師
- 22) 12月8日 会津土建株式会社 プロフェッショナル・ビジネス・リーダー・コース 中小企業のビジネス・技術戦略視察
- 23) 12月22日 (株)三菱レーヨン幹部研修プログラム 講演 “大競争時代における Compliance 経営”
- 24) 1月26日 (株)三井住友海上幹部研修プログラム 講演 “グローバル・リーダーシップ”

高木 英明

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) M. Kitajima, N. Kariya, H. Takagi, and Y. Zhang, "Evaluation of Website Usability Using Markov Chains and Latent Semantic Analysis," IEICE Transactions on Communications, Vol.E88-B, No.4, pp.1467-1475, April 2005.
- 2) M. Ohmikawa, H. Takagi, and S.-Y. Kim, "Optimal Call Admission Control for Voice Traffic in Cellular Mobile Communication Networks," IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences, Vol.E88-A, No.7, pp.1809-1815, July 2005.
- 3) D. Wu and H. Takagi, "Processor-Sharing and Random-Service Queues with Semi-Markovian Arrivals," Journal of Applied Probability, Vol.42, No.2, pp.478-490, June 2005.
- 4) R. M. Rodriguez-Dagnino and H. Takagi, "Distribution of the Number of Handovers in a Cellular Mobile Communication Network: Delayed Renewal Process Approach," Journal of the Operations Research Society of Japan, Vol.48, No.3, pp.207-225, September 2005.
- 5) Y. Zhang, M. Murata, H. Takagi, and Y. Ji, "Traffic-Based Reconfiguration for Logical Topologies in Large-Scale WDM Optical Networks," Journal of Lightwave Technology, Vol.23, No.10, pp.2854-2867, October 2005.
- 6) 高木英明・吉野仁・的場直人・東充宏、次世代移動通信システムにおける所要周波数帯域幅算出法、電子情報通信学会論文誌 B、Vol.J89-B, No.2, pp.135-142, 2006 年 2 月.
- 7) H. Takagi, H. Yoshino, N. Matoba, M. Azuma, and M. Shirakabe, "System Capacity Calculation for Packet-Switched Traffic in the Next Generation Wireless Systems, - Batch Arrival M/G/1 Nonpreemptive Priority Queueing Model for Transmission over a Radio Channel -" 信学技報 NS2008-8, pp.29-32, 電子情報通信学会, 南山大学, 2005 年 4 月 21 日.
- 8) T. Irnich, B. Walke, and H. Takagi, "System Capacity Calculation for Packet-Switched Traffic in Next Generation Wireless Systems, Part I: M/G/1 Nonpreemptive Priority Queueing Model for IP Packet Transmission," The 19th

International Teletraffic Congress, Performance Challenges for Efficient Next Generation Networks, pp.11-22, Beijing, China, August 29 - September 2, 2005.

- 9) H. Takagi, H. Yoshino, N. Matoba, M. Azuma, and M. Shirakabe, "System Capacity Calculation for Packet-Switched Traffic in the Next Generation Wireless Systems, Part II: Batch Arrival M/G/1 Nonpreemptive Priority Queueing Model for Transmission over a Radio Channel," The 19th International Teletraffic Congress, Performance Challenges for Efficient Next Generation Networks, pp.21-30, Beijing, China, August 29 - September 2, 2005.
- 10) R. M. Rodriguez-Dagnino, J. J. Ruiz-Cedillo, and H. Takagi, "Mobility Management for General Distributed Location Areas," Performance, Quality of Service, and Control of Next-Generation Communication and Sensor Networks III, edited by M. Atiquzzaman and S. I. Balandin, Proceedings of SPIE, Vol.6011, 601105-1 - 601105-13, SPIE Optics East Symposium, Boston, October 25, 2005.
- 11) H. Takagi and S.-Y. Kim, "Approximation of the Delay Distribution in Batch Arrival M/G/1 Priority Queues," 待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」, pp.137-146, 神奈川県三浦市, 2006 年 1 月 23-26 日.

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) 特別講演、次世代移動通信システムにおける所要周波数帯域幅算出法、第 5 回モバイル IT フォーラム総会・特別講演会、東京・明治記念館、2005 年 5 月 24 日 .
- 2) Keynote speech, The 1st Tsinghua International Forum for Doctoral Candidates (TIFDC 2005)、清華大学、2005 年 9 月 3 日 .

(2) 学会活動

- 1) 学術論文誌 Performance Evaluation (Elsevier) 編集委員
- 2) 学術論文誌 Queueing Systems (Balzer) 編集委員
- 3) プロジェクトマネジメント学会 (任意団体) 特任理事
- 4) プログラム委員、The 16th Annual IEEE Symposium on Personal Indoor and Mobile Communications, Berlin, Germany, September 11-14, 2005.

(3) 研究助成など

- 1) モバイルIT フォーラム、IMT-2000 の高度化及びその後継システムにおける
所要周波数帯域幅算出法に関する研究、一般受託研究 ACA17044、2,875,600
円（うち間接経費 663,600 円）

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：応用確率過程特論

社会工学類：微積分Ⅰ、応用確率過程

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 修士課程委員会委員
- 2) 産学リエゾン共同研究センター運営委員
- 3) 入試実施委員会委員
- 4) 社会システム工学専攻運営委員
- 5) 社会工学類入試実施委員会委員長

III. 社会的活動

- 1) 特定非営利活動法人つむぎつくば 代表
- 2) 第1回つくばベンチャー大賞 選考委員長
- 3) 筑波大学産学連携会（任意団体）会長補佐、理事
- 4) いばらきベンチャー企業育成投資事業有限責任組合投資評価委員会 委員
- 5) NPO セキュアなデジタル社会を推進する会 協力会員
- 6) フランス・テレコム株式会社 サイエンティフィック・アドバイザー
- 7) 高木英明、つくばベンチャー大賞の創設と第1回の選考について、CROSS
つくば、No.22、pp.31-33、2006年1月発行.

土井 正幸

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読付き論文

- 1) “National and regional wage curves in Japan, 1981-2001,” Review of Urban & Regional Development Studies, Vol.17, No.3, Nov. 2005, pp.248-271.

ii) その他論文

- 1) 「物流アクセシビリティと東日本地域の製造業生産活動分析」、日本交通政策研究会、日交研シリーズ A-381、pp.1-10、2005 年 5 月.

(2) 学会活動

- 1) Managing Editor, Review of Urban and Regional Development Studies.
- 2) Editor, Journal of Applied Input-Output Analysis.
- 3) 応用地域学会運営委員.
- 4) 環太平洋産業連関分析学会運営委員.
- 5) 日本交通学会評議員、学会賞審査委員.
- 6) 日本港湾経済学会評議員.
- 7) 日本海運経済学会評議員

(3) 研究助成など

- 1) 文部科学省科学研究費基盤研究 (C)(2)、研究代表者.

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：地域経済学特論、地域経済学、交通経済政策論
社会工学類：地域と地域間の経済学、空間と交通の経済学、都市構造論、都市地域経済学演習

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 社会システムマネジメント専攻運営委員
- 2) 社会工学類レポート不正行為防止・処分制度検討委員会委員長
- 3) 社会工学類3年担任
- 4) 留学生センター運営委員（システム情報工学研究科代表）

(3) 他大学における講義

- 1) 流通経済大学非常勤講師

III. 社会的活動

- 1) 厚生労働審議会専門委員
- 2) 茨城県港湾審議会委員
- 3) （独）国際協力機構（JICA）支援委員会委員
- 4) 国土交通省、茨城県等において、各種調査・研究委員会の委員、講演など

中村 豊

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) 中村豊 (2005) 主観的期待効用理論の展開、知能と情報、vol. 71, No. 6, 655-658.

ii) Working papers

- 1) Nakamura, Yutaka: SSB preferences - nonseparable utilities or nonseparable beliefs.
- 2) Nakamura, Yutaka: Comparative probabilities with additive threshold.

(2) 学会活動

- 1) A member of Editorial Board of Journal of Mathematical Psychology
- 2) 日本経済学会 2005 年度春季大会で指定討論 (京都産業大学)
- 3) Journal of Mathematical Psychology のレフェリー

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費 (萌芽研究) 『満足化原理にもとづく限定合理的意思決定の公理的基礎とその応用に関する研究』

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：ミクロ経済学特論
経営・政策科学研究科：意思決定分析、数学
社会工学類：意思決定論、微積分

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 予算委員長 (社会工学類)

- 2) 運営委員（システム情報工学研究科社会システム・マネジメント、社会システム工学、経営・政策科学3専攻）

橋本 昭洋

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) Hashimoto, A. and Haneda, S., Measuring the change in R&D efficiency of the Japanese pharmaceutical industry. Dept. Social Sys Mgmt Discussion Pap. Ser. 1128, Univ. Tsukuba, 2005.

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) 口頭発表 研究・技術計画学会 第20回年次学術大会

iii) その他

- 1) Biographee Marquis Who's Who in Science and Engineering (8th ed.) 2005.

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：システム評価特論

経営・政策科学研究科：システム評価決定論，数理計画実習

社会工学類：評価と決定

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) システム情報工学研究科 社会工学関連専攻 人事懇談会運営委員，
- 2) システム情報工学研究科 社会工学関連専攻 博士論文委員長
- 3) 社会工学類 総合科目編成委員
- 4) 社会工学類 公開講座委員

藤井 英次

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読付き論文

- 1) “ Dimensions of Financial Integration in Greater China: Money Markets, Banks and Policy Effects ” (with Yin-Wong Cheung and Menzie Chinn) International Journal of Finance & Economics, v. 10, n. 2, April 2005, pp. 117-132.
- 2) “ Intra and Inter-Regional Causal Linkages of Emerging Stock Markets: Evidence from Asia and Latin America in and out of Crises ” Journal of International Financial Markets, Institutions & Money, vol. 15, no. 4, October 2005, pp.315-42.
- 3) “ Chinese Economies in Global Context: The Integration Process and Its Determinants ” (with Yin-Wong Cheung and Menzie Chinn) Journal of the Japanese and International Economies, v. 20, n. 1, March 2006, pp. 128-153.
- 4) “ Cross-Country Relative Price Volatility: Effects of Market Structure ”(with Yin-Wong Cheung), Review of International Economics, forthcoming.

ii) その他論文

- 1) “ Cross-Country Relative Price Volatility: Effects of Market Structure ”(with Yin-Wong Cheung), CESifo Working Paper Series 1456, Center for Economic Studies & Ifo Institute for Economic Research, April 2005.
- 2) “ Why the Renminbi Might be Overvalued ” (with Yin-Wong Cheung and Menzie Chinn), University of Wisconsin, Madison, 2005.

iii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) “ Why the Renminbi might be overvalued ”, American Economic Association Meeting, Boston, MA, USA, January 6, 2006.
- 2) “ Exchange Rate Pass-Through and Inflation Environment in Industrialized Countries: An Empirical Investigation ”, Asia Pacific Economic Association Meeting 一橋大学 2005年7月31日
- 3) 同上修正稿 日本経済学会秋季大会、中央大学、2005年9月18日

(2) 学会活動

- 1) レフリー： American Economic Review, Journal of International Economics, Journal of International Financial Markets, Institutions and Money, Review of International Economics

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費補助金 基盤研究 (C)
- 2) 日本経済研究奨励財団奨励金

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：国際金融論

経営・政策科学研究科：国際貿易

社会工学類：国際マクロ経済学、グローバルシステム演習

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 学類：学類授業評価委員
- 2) 学類：非常勤講師審査員
- 3) 学類：レポート提出不正行為防止・処分制度検討臨時委員
- 4) システム情報工学研究科：専攻合同運営委員
- 5) システム情報工学研究科：将来構想委員（大学院・学類連携タスクフォース）
- 6) システム情報工学研究科：学生相談室長

藤原 良叔

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) 「Covering Arrays of Strength 3 and A Double Arc Problem」INTERNATIONAL CONFERENCE ON DESIGN OF EXPERIMENTS: THEORY AND APPLICATIONS, May 13-15, 2005, THE UNIVERSITY OF MEMPHIS
- 2) 「強さ 3 の被覆配列と二重 Arc 問題」京都大学数理解析研究所 平成 17 年 8 月 5 日
- 3) 「Further Combinatorial Constructions for Optimal Frequency-Hopping Sequences」, SYMPOSIUM IN HONOUR OF PROF.DR. J.H. VAN LINT, October 2-5, 2005, Koningshof, Veldhoven オランダ
- 4) 「周波数ホッピング系列と巢型デザイン」, 名古屋大学セミナー, 平成 18 年 2 月 22 日

(2) 学会活動

- 1) Foundation Fellow : Institute of Combinatorics and its Applications
- 2) Editorial Board : Journal of Combinatorial Mathematics and Combinatorial Computing, Winnipeg Canada
- 3) Council member : Institute of Combinatorics and its Applications
- 4) レフリーイング (IEEE IT, JSPI , Graph and Combinatorics その他) ,
- 5) AMS レビューイング (3-4 件)
- 6) 10th Pacific Asia Conference on Information Systems (PACIS 2006) IS SECURITY TRACK Committee

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費補助 (基盤 C 展開研究 C) 「ソフトウェア・テストに用いる検査計画の構成に関する研究」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：情報離散数学特講

経営・政策科学研究科：情報離散数学特講

社会工学類：経営工学情報処理実習，シミュレーション，経営の科学

(2) 役職・各種委員会委員

1) 社会工学類カリキュラム委員

2) 社会工学類コンピュータ委員長

(3) 他大学における講義

1) 非常勤講師 日本大学生産工学部

星野 靖雄

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読付き論文

- 1) 中国における日系製造業子会社の収益性、経営行動科学、Vol.19 No.2, pp.133-149, 2006, (陸定と共著)
- 2) Influence of Location Factors on Establishment and Ownership of Foreign Investments: the Case of the Japanese Manufacturing Firms in Europe, with Ilian Somlev, International Business Review, Vol.14, pp.577-598, 2005.
- 3) The Impact of Ownership, Internalization, and Entry Mode on Japanese Subsidiaries' Performance in Brazil with Mario Henrique Ogasavara, forthcoming, Japan and the World Economy

ii) その他論文

- 1) 信用金庫でのデリバティブ利用と効果について、筑波学院大学紀要、第1集、pp.125 - 138、2006年、(追杉健一、室田聡志と共著)

iii) 論文発表

- 1) The Influence of Firm Specific Advantages and Entry Mode on Performance, in the Proceedings of 8th Annual Convention of Japanese Association of Administrative Science, November 11-12 2005, pp.412-428、Keio University Hiyoshi Campus、(with Kais Ben Youssef)
- 2) The Determinants of Survival of Japanese Subsidiaries in Brazil, in the Proceedings of 8th Annual Convention of Japanese Association of Administrative Science, November 11-12 2005, pp.412-428、Keio University Hiyoshi Campus. (with Mario Ogasavara)
- 3) Interfirm Network Ties and Resource Procurement of IJVs, in the Proceedings of 8th Annual Convention of Japanese Association of Administrative Science, November 11-12 2005, pp.412-428、Keio University Hiyoshi Campus. (with Alcantra, Lailani Laynesa and Hitoshi Mitsuhashi).
- 4) Tradition of Lifetime Employment and Corporate Profitability in Japan, presented at 2005 Annual Conference July 9-12, 2005 Quebec City Convention Centre, (with Hamid Hassan)

- 5) Implication of Firm Experiential Knowledge and Sequential Investment on Japanese Subsidiaries' Performance in Brazil, The 13th Pacific Basin Finance, Economics and Accounting, June 10-11 2005, Rutgers University NJ (with Mario Henrique Ogasavara).
- 6) Implications of firm experiential knowledge and sequential investments on Japanese subsidiaries' performance in Brazil, Japan Finance Association, East Japan Bloc Conference, September 9, 2005, University of Tsukuba Tokyo Campus, (with Mario Henrique Ogasavara) .

iv) インタビュー記事

- 1) “International Studies of Management & Organization” Editor Professor Jean Boddewyn, Japanese Journal of Administrative Science Vol. 19, No.2, 175-180.
- 2) “Japanese Journal of Administrative Science” Special Associate Editor, Professor Sanford M. Jacoby, Japanese Journal of Administrative Science Vol. 19, No.1, 13-16.
- 3) “Pacific-Basin Finance Journal”, Editor, Professor S. Ghon Rhee, Japanese Journal of Administrative Science Vol.19, No.1, 17-19.
- 4) “Review of Quantitative finance and Accounting, Review of Pacific Basin Financial Markets and Policies, Editor Cheng F. Lee, Japanese Journal of Administrative Science Vol.19, No.1, 21-28.
- 5) “Journal of International Business Studies” Editor-in-Chief, Professor Arie Y. Lewin, Japanese Journal of Administrative Science Vol.19, No.1, 29-37.
- 6) “Journal of International Management” Editor, Professor Masaaki Kotabe, Japanese Journal of Administrative Science Vol.19, No.1, 39-44.
- 7) “Journal of International Business Studies” Departmental Editor of Finance, Professor Raj Aggarwal, Japanese Journal of Administrative Science Vol.19, No.1, 45-51.
- 8) “Asia Pacific Journal of Management” Editor-in-Chief, Professor Andrew Delios, Japanese Journal of Administrative Science Vol.19, No.1, 53-57.
- 9) “International Business Review” Editor, Professor Pervez Ghauri, Japanese Journal of Administrative Science Vol.19, No.1, 59-61.

v) その他

- 1) 海外ファカルティディベロップメント研究会に参加して、情報技術経営のビジネスケースの利用による理論と実践の統合セッションとハワイ州での MBA

について、筑波大学システム情報工学研究科におけるファカルティディベロップメント活動 平成 17 年度教育プロジェクト報告書 , pp.64-76、平成 18 年 3 月.

- 2) マイノリティーの大学での 3 学期制、つくばスチューデントズ、2006 年 5 月号、6 頁、平成 18 年度 No.2.

(2) 学会活動

- 1) 日本経済学会連合評議員
- 2) 経営行動科学学会会長
- 3) 経営行動科学学会「経営行動科学」常任編集委員
- 4) Journal of Financial Management and Analysis: International Review of
- 5) Review of Pacific Basin Financial Markets and Policies の編集委員
- 6) 同上誌および Review of Quantitative Accounting and Finance 等の査読を行った。
- 7) The 13th Pacific Basin Finance, Economics and Accounting Conference 実行委員

(3) 研究助成など

- 1) 平成 17 年度 科学研究費補助金 (基盤研究 (C)(2)) 「国際的企業合併、買収、撤退、合併、完全子会社の業績についての実証研究」を実施

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：コーポレートファイナンス特論

経営・政策科学研究科：経営管理論

社会工学類：経営管理論

ビジネス科学研究科企業科学専攻：国際経営

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 社会工学類防災委員長
- 2) 社会工学類学生担当教員

(3) 他大学における講義

- 1) 筑波学院大学情報コミュニケーション学部非常勤講師
- 2) 法政大学経営学部非常勤講師

松田 紀之

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) Matsuda, N. Revisiting Kelly's Personal Construct Theory and Reynold & Gutman's Means-End Chain Model. 日本行動計量学会第33回大会・長岡技術大学，長岡市．8月．

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：行動科学特論

経営・政策科学研究科：心理情報分析，MBA 演習 I

社会工学類：経営工学概論，経営工学基礎演習，総合演習 - 社会システム分析

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 博士課程社会システム・マネジメント専攻広報委員会委員
- 2) 全学就職委員会委員
- 3) 社会工学類クラス担任 (3 年生)

III. 社会的活動

- 1) 講演：「商品選好の上手な把握とその分析：感性・情報デザインの視点」(株)日本テクノセンター，'06.1.16.

焼田 党

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) A note on environmental awareness and cross-border pollution, Environmental and Resource Economics 30, 2005, 369-376. (共著)
- 2) Fertility, bought-in child care, and pay-as-you-go social security, CUIE Discussion Paper #0502, May 2005.(共著)

(2) 学会活動

- 1) レフェリー：Jornal of Population Economics, Japanese Economic Review, Journal of Public Economics, 生活経済学研究

(3) 研究助成など

- 1) 学術振興野村基金

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：マクロ経済学特論

経営・政策科学研究科：マクロ経済学

社会工学類：公共経済学、学際エリア（少子化社会における社会経済システム、高齢化社会における社会経済システム、社会基盤整備の社会経済学）

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 社会工学類カリキュラム委員 他

III. 社会的活動

- 1) 茨城県総合計画審議会総合部会委員

山本 芳嗣

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) K. Ohbo, M. Tsurutani, M. Umezawa and Y. Yamamoto, “Social welfare function for restricted preference domain,” Pacific Journal of Optimization 1 (2005) 2, 315-325.
- 2) Y. Yamamoto and D. Zenke, “Cut and split method for the minimum maximal flow problem,” Pacific Journal of Optimization 1 (2005) 2, 387-404.

ii) ディスカッションペーパー

- 1) K. Sato and Y. Yamamoto, “A study on linear inequality representation of social welfare functions,” Tinbergen Discussion Paper 06-022/1, Tinbergen Institute, Amsterdam, February 2006.
- 2) M. Tsurutani, M. Umezawa and Y. Yamamoto, “Impossibility and possibility theorems for social choice function with restricted alternative set,” Discussion Paper 1127, Department of Social Systems and Management, Graduate School of Systems and Information Engineering, University of Tsukuba; Forschungsbericht Nr.05-4, Mathematik/Informatik, Universitaet Trier, July 2005.
- 3) Y. Yamamoto and D. Zenke, “Outer approximation method for the minimum maximal flow problem,” Discussion Paper 1115, Department of Social Systems and Management, Graduate School of Systems and Information Engineering, University of Tsukuba, April 2005.

(2) 学会活動

- 1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会表彰委員会委員

(3) 研究助成など

- 1) みずほ第一フィナンシャルテクノロジー株式会社「時系列モデルに対する構造的数値解法の開発」に関する研究助成（住田潮教授、後藤順哉講師と共同）

- 2) アレキサンダー・フォン・フンボルト財団 (Alexander von Humboldt-Stiftung) からドイツ、トリア大学での研究滞在費用助成
- 3) オランダ科学研究協会 (Nederlandse Organisatie voor Wetenschappelijk Onderzoek) からアムステルダム自由大学での研究滞在費用助成

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：数理計画特論 1、数理計画特論 2

経営・政策科学研究科：数学 1、数理計画

社会工学類：経営工学概論、社会工学実習、計算機科学

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) (システム情報工学研究科社会システムマネジメント専攻) 博士論文委員会委員

吉田 あつし

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) 吉田あつし, 「公的医療保険制度におけるインセンティブの構造」, 『現代のエスプリ』458号, 2005年, pp.80-85
- 2) 川村顕・吉田あつし, 「歯科医院の参入が医療費および経済厚生に与える効果」, 応用地域学会, 12月10日, 11日

(2) 学会活動

- 1) The Economic Journal, 「経済研究」のレフェリー
- 2) 2005年度日本経済学会秋季大会プログラム委員
- 3) 日本経済学会理事

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費、基盤研究(B)(2)「医療サービス産業の市場と組織に関する計量分析」(代表者)
- 2) 人文・社会科学振興プロジェクト研究事業受託研究、独立行政法人日本学術振興会、「医療システムと倫理」(コアリーダー)
- 3) 科学研究費、基盤研究(A)(1)「時空間統計解析の理論と応用」(分担者)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：都市経済学特論

経営・政策科学研究科：都市経済学

社会工学類：都市データ分析、都市経済学、統計学2

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 授業評価委員

- 2) 大学院入試委員

III. 社会的活動

- 1) (財)関西社会経済研究所リサーチ・フェロー

吉田 雅敏

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読付き論文

- 1) Incidence of Consumption Tax and Tax Treatment of Elderly Expenditures, Public Finance, 54 (2005) pp.57-72.

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) Fiscal Multipliers with Home Production.
- 2) Labour Taxation and Home Production.

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：財政システム特論、財政学
社会工学類：経済原論

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 社会工学類長
- 2) 各種委員会委員：多数

助教授

秋山 英三

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) Sato, Y., Akiyama, E. and Crutchfield, JP., “Stability and Diversity in Collective Adaptation,” *Physica D*, 210, 21-57, (2005).
- 2) Suzuki, S. and Akiyama, E., “Reputation and the Evolution of Cooperation in Sizable Groups”, *Proceedings of the Royal Society B: Biological Sciences* 272, 1373-1377 (2005).
- 3) Akiyama, E. and Auka, Y., “Evolution of Reciprocal Cooperation in the Avatamsaka Game,” *Economics and Heterogeneous Interacting Agents, Lecture Notes in Economics and Mathematical Systems*, Berlin, Springer, 307-320 (2005).
- 4) Kimura, H. and Akiyama, E., “Grand Canonical Minority Games with Variable Strategy Spaces,” *New Frontiers in Artificial Intelligence: Proceeding of the 19th Annual Conferences of the Japanese Society for Artificial Intelligence*, 7 pages, (2006), forthcoming.
- 5) 秋山英三、「Host-Parasite ネットワークにおける秩序とカオス」, *The Proceedings of the Joint Agent Workshop 2005 (JAWS 2005)*, 453-460,(2005),.
- 6) 鈴木真介、秋山英三、「多人数グループ内での間接的互惠性の進化：Standing 評判基準の効果」, *The Proceedings of the Joint Agent Workshop 2005 (JAWS 2005) Proceedings*, 93-100, (2005),.
- 7) 木村博道、秋山英三、「少数派ゲームの想定と市場」, *The Proceedings of the Joint Agent Workshop 2005 (JAWS 2005)*, 201-208 (2005), .
- 8) 木村博道、秋山英三、「先進国と途上国の出来高の振る舞いの違いとその原因」, *FCS/テクノシンポ名大/MPS シンポジウム 2005*, 8 pages, (2005).
- 9) 秋山英三、「Host-Parasite ネットワークにおける戦略頻度ダイナミクスの複雑性」, *日本ソフトウェア科学会ネットワークが創発する知能研究会 第一回ワークショップ (WEIN2005) Proceedings*, 128-134, (2005).
- 10) Akiyama, E., “The Origin of Inefficiency: The Avatamsaka Game as a De-

pendent Game,” Proceedings of the First International Workshop on Agent Network Dynamics and Intelligence (ANDI’05), 135-141, (2005).

- 11) Suzuki, S. and Akiyama, E., “Evolution of Reputation-based Reciprocity in Sizable Groups,” Proceedings of the First International Workshop on Agent Network Dynamics and Intelligence (ANDI’05), 111-117, (2005).
- 12) Kimura, H., Akiyama, E., “Grand Canonical Minority Game with Variable Strategy Spaces,” Proceedings of the First International Workshop on Agent Network Dynamics and Intelligence (ANDI’05), 127-134, (2005).
- 13) 木村博道、秋山英三, “先進国と途上国の出来高の振る舞いの違いとその原因” FCS/テクノシンポ明大/MPS シンポジウム 2005 計算科学シンポジウム 論文集, 393-400 (2005).

(2) 学会活動

- 1) 日本ソフトウェア科学会 ネットワークが創発する知能研究会 プログラム委員
- 2) 電子情報通信学会論文誌編集委員会査読委員
- 3) 電子情報通信学会常任査読委員
- 4) レフリー：Physica D 1件
- 5) レフリー：情報処理学会和文 3件

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：進化と経済特論

経営・政策科学研究科：情報科学演習

社会工学類：社会工学実習、プログラミング実習、

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) システム情報工学研究科：コンピュータ委員
- 2) 社会工学類：コンピュータ委員

有田 智一

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) 小俣元美、大村謙二郎、有田智一、「都市再開発法制定時前後の高度成長期に取り組みれた再開発ビルの現状と課題」、『日本不動産学会誌』、2005、19(1)、pp111-121.
- 2) 鶏内久之、大村謙二郎、有田智一、「住宅地における敷地狭小化に対する規制誘導手法に関する研究-江戸川区を事例として」、『都市計画論文集』、2005、No.40、pp433-438.
- 3) 千葉明日香、大村謙二郎、有田智一、「公的な大規模跡地利用方法の決定過程に関する考察-目黒区・世田谷区東京都立大学跡地を事例として」、『都市住宅学』、2005、Aut.pp35-40.
- 4) 小川雷二、大村謙二郎、有田智一、「東京都区部の既成住宅市街地における保全型地区計画制度導入実態と課題」、『都市住宅学』、2005、Aut.pp41-46.
- 5) Peter K. Kamau, Kenjiro Omura and Tomokazu Arita, "Factors that affect self-build housing in Nairobi, Kenya," *Urban Housing Sciences*, 2006, Spring, pp78-85.
- 6) Philip McCann and Tomokazu Arita, "Clusters and Regional Development: Some Cautionary observations from the semiconductor industry," *Information Economics and Policy*, 2006, Vol.18, pp157-180.
- 7) Arita, Tomokazu and McCann, Philip, "The Global Semiconductor Industry", in Pellenbarg, P., Wever, E., (eds), *The Corporate Firm*, Routledge, London, 2006, forthcoming
- 8) Tomokazu Arita, Masahisa Fujita, Yoshihiro Kameyama, "Regional Cooperation of Small & Medium Firms in Japanese Industrial Clusters", ICSEAD Working Paper No.2005-02, 2005.
- 9) Tomokazu Arita, "Urban Redevelopment in Tokyo: An International View", *CPIJ News Letter* No.25, 2006 March, The City Planning Institute of Japan.
- 10) 有田智一、「「性能規定化問題」に関する一考察 建築基準法接道特例許可のケース」、『2005年度日本建築学会大会（近畿）建築法制部門研究懇談会資料「天空率導入による斜線制限導入緩和手法 - その可能性と限界を考える」』、2005

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) Kenjiro Omura and Tomokazu Arita, “A Research on the Urban Regeneration Policies in an Age of Shrinking Cities in Japan”, at 11th International Conference of the EAJIS, European Association for Japanese Studies, at University of Vienna, Austria, in September 2, 2005
- 2) Tomokazu Arita and Philip McCann, “Comparative analysis of the location behavior of the global semiconductor manufacturers”, at the North American meetings of the Regional Science Association International in Las Vegas in November 10, 2005.

(2) 学会活動

- 1) 日本建築学会建築法制委員会集団規定の性能規定化問題小委員会委員
- 2) 日本都市計画学会事業委員会委員
- 3) 日本都市計画学会学術委員会委員

(3) 研究助成など

- 1) 国土交通省国土技術政策総合研究所・財団法人国土技術研究センター「日立市における郊外戸建て住宅地の再生・再編のための実態把握等調査業務」の受託

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：都市経済学演習

経営・政策科学研究科：都市・環境政策学

社会工学類：統計学、都市と環境の経済学、現代まちづくりの理論と実践、都市計画マスタープラン策定演習

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 大学院新カリキュラム検討タスクフォース（経営・政策科学専攻 MPP サブタスクフォース及びワーキンググループ）委員
- 2) 大学院 3 専攻合同入試実施委員（経営・政策科学研究科担当責任）
- 3) 第三学群安全管理委員

III. 社会的活動

- 1) 東京都江戸川区都市計画審議会委員
- 2) 埼玉県都市計画審議会専門委員
- 3) 道路環境影響評価の技術手法改定検討委員会委員（国土交通省国土技術政策総合研究所）
- 4) 再開発コーディネーター協会試験講習委員会委員
- 5) シンポジウム「建築・道路行政が連携した災害に強く良好な居住環境整備
その新手法 狭あい道路整備の推進実務とまちづくりへの新展開 ～拡幅整備事業、密集住宅市街地の計画的更新～」(主催 地域科学研究会): 2006
年3月30日(木)於東京、パネリスト

石井 健一

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読付き論文

- 1) A comparative study of media cultures among Taiwanese and Japanese youth Telematics and Informatics, 23(2), pp.95-116, 2006 年 (C. Wu と共著、筆頭著者).

ii) その他論文

- 1) 2005 年反日デモと対日意識・愛国心, 日中社会学会ワーキングペーパー集, 1 号、1-10. 2006 年.
- 2) 従欧美崇拜到亞洲偏好, 中国伝播学評論, 第一輯 (張国良主編、復旦大学出版社) pp125-131, 2005 年 (中国語、張国良訳).
- 3) Internet Usage Trends in Japan -Survey Report 2005-, the World Internet Project Japan, Interfaculty Initiative in Information Studies and National Institute of Information and Communications Technologies, 2005 年 (共同執筆) .
- 4) 『インターネット利用動向に関する実態調査報告書 2005』, 通信総合研究所、2005 年 (共同執筆) .

iii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) 学会発表、中国における日本ブランド志向と対日意識、日中社会学会研究集会 (筑波大学東京キャンパス、2005 年 11 月 26 日)
- 2) 台湾と日本の若者にみるメディア利用の比較、社会情報学会 (京都大学、2005 年 9 月 14 日)
- 3) テレビとインターネット利用の代替関係、日本マス・コミュニケーション学会 2005 年度秋季大会ワークショップ (東京女子大学、2005 年 10 月 15 日)

(2) 学会活動

- 1) レフェリー (Telecommunications Policy)

(3) 研究助成など

1) 科学研究費 (B)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：消費者行動特論

社会工学類：社会・経済システム情報処理、戦略行動システム実習、社会調査・実習

(2) 役職・各種委員会委員

1) 広報委員 (システム情報工学研究科)

2) クラス担任 (社会工学類)

江口 匡太

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) “Productivity Loss and Reinstatement as a Legal Remedy for Unjust Dismissal”, Journal of the Japanese and International Economies, forthcoming.

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) 2005 年 11 月 第 11 回 労働経済学東西コンファレンス（湘南国際村センター）

(2) 学会活動

- 1) レフェリー Journal of the Japanese and International Economies

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費補助金 若手研究 B(研究代表者) 「解雇法制における契約の不完備性と社会規範形成に関する研究
- 2) 科学研究費補助金 基盤研究 B(研究分担者) 「倒産をめぐる法制度の経済分析
- 3) 統計研究会 労働市場研究委員会 「経済社会の構造変化と労働市場に関する調査研究

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

経営・政策科学研究科：労働経済論

社会工学類：経済学入門、ミクロ経済学、労働経済学、公共エリアシステム演習

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 学類運営委員

- 2) 学類・大学院連携タスクフォース委員
- 3) 学類同窓会準備委員会委員

III. 社会的活動

- 1) 統計研究会 労働市場研究委員会委員

岡本 直久

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) A Study On The Acceptability Of The Etc In Metro Manila And A Framework For Estimating Its Environmental Benefits; Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol. 6, pp.2530-2545, Cresencio M. MONTALBO Jr., Haruo Ishida, Naohisa Okamoto, Morito Tsutsumi, 2005.9
- 2) Private Finance For Road Projects In Developing Countries: Improving Transparency Through VFM Risk Assessment; Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol. 6, pp.3899-3914, Diego Fernando TANAKA, Haruo ISHIDA, Morito TSUTSUMI, Naohisa OKAMOTO, 2005.9
- 3) Modeling Car Trips towards Strategic Allocation of Alternative Fuel Stations; 85th Transportation Research Board, Compendium of papers CD-ROM, Morito TSUTSUMI, Haruo ISHIDA, Naohisa OKAMOTO, Kosei SUZUKI, 2006.1

(2) 学会活動

- 1) Eastern Asia Society for Transportation Studies, Secretariat

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費基盤研究 (C) : プロブカーを用いた渋滞計測と評価に関する研究 : 代表 石田東生 (分担)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科 : プロジェクト評価特論

経営・政策科学研究科 : 都市システム計画、情報科学演習

社会工学類 : 都市と地域の経営・行政論、交通計画、社会基盤整備と地域・国土計画、社会基盤整備の社会経済学、社会基盤の未来演習、プログラミング実習

(2) 他大学における講義

- 1) 島根県立大学非常勤講師 地域経済論担当

III. 社会的活動

- 1) 友部 S A スマート I C 社会実験推進協議会 会長 (茨城県)
- 2) 茨城県交通安全・要対策トップ 10 ブロック会議 委員長
- 3) 茨城県移動性向上委員会 委員長

繁野 麻衣子

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) Satoru Iwata, S. Thomas McCormick and Maiko Shigeno, “A Strongly Polynomial Cut Canceling Algorithm for Minimum Cost Submodular Flow” SIAM Journal on Discrete Mathematics, 19, 304–320.

(2) 学会活動

- 1) 情報処理学会アルゴリズム研究運営委員会運営委員
- 2) レフェリー：Optimization Method & Software, Information Processing Letters

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：離散システム特論

経営・政策科学研究科：数学 I, 数学 II, 離散最適化

社会工学類：線形代数 I, 数理計画, 計算機科学

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) システム情報工学研究科：セクシャルハラスメント相談員
- 2) 社会システム工学専攻：修論委員, 学生相談室

鈴木 秀男

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) 鈴木秀男, 松尾博文, アラウス リタ「日本の製造企業における品質管理の現状と変化に関する調査研究」, 日本品質管理学会, 会場; 関西大学, 2005 年 11 月 12 日, 第 35 回年次大会研究発表要旨, pp.9-12.
- 2) 山本直寛, 鈴木秀男, 松尾博文, 「競争を考慮した最適な製品開発期間の決定」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会, 会場; 神戸学院大学, 2005 年 9 月 15 日, 2005 年秋季研究発表会アブストラクト集, pp.114-115 .
- 3) 佐治明, 鈴木秀男, 「1 クラス SVM の品質管理への適用」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会, 会場; 神戸学院大学, 2005 年 9 月 15 日, 2005 年秋季研究発表会アブストラクト集, pp.28-29.
- 4) Arauz, R., H. Suzuki, and H. Matsuo. (2005):“ A Quality Management Framework in the Light of Firm Size in Japan ”, The Proceeding of the 3rd ANQ Congress and the 19th Asia Quality Symposium 2005, 577-585.
- 5) 山崎健史, 吉田敬, 鈴木秀男, 「経験価値を導入した消費者評価構造に関する分析」, 日本品質管理学会, 会場;(財) 日本科学技術連盟, 2005 年 5 月 27 日, 第 77 回研究発表要旨, pp.55-58 .
- 6) 鈴木秀男, 飯島健吾, 藤嶋浩輝, 周女尼, Rokshana Parveen, 「つくば市小売業のマーケティング分析 - つくばエクスプレス開業に向けて - 」, 日本品質管理学会, 会場;(財) 日本科学技術連盟, 2005 年 5 月 27 日, 第 77 回研究発表要旨, pp.67-70 .

(2) 学会活動

- 1) (社) 日本品質管理学会 理事
- 2) (社) 日本品質管理学会論文誌編集委員会委員

(3) 研究助成など

- 1) 2005 年度システム情報工学研究科基盤教育研究費 (教員当) 等重点配分 (代表者) 「ユビキタス社会におけるビジネスモデルの研究と開発」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：統計解析特論

経営・政策科学研究科：品質管理、特定課題研究

社会工学類：経営工学実習、品質管理

(2) 役職・各種委員会委員

1) システム情報工学研究科 3 専攻合同委員会：運営委員会委員

2) 大学院・学類連携 T F 委員

3) 修士論文・特定課題研委員会委員

(3) 他大学における講義

1) 東京経済大学非常勤講師、明治大学非常勤講師

2) (財)日本規格協会「2005 年度実験計画法セミナー入門コース」講師

III. 社会的活動

1) (財)日本規格協会 品質管理検定(QC 検定)運営委員会委員

TURNBULL, Stephen John

I. 研究活動

(1) 学会活動

- 1) 「経営行動科学」編集委員
- 2) 「経済研究」概要英文編集委員

(2) 研究助成など

- 1) 科学研究補助金基盤 (C)(3) 平成 17 年度～19 年度 金澤雄一郎・スティーヴエン・ランダム「ランダム係数ロジットモデルを用いたアメリカ自動車需要の推定とマーケティング考察」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：情報経済システム特論

経営・政策科学研究科：ミクロ経済学

社会工学類：Introduction to Social and Economic Science、経済動学

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 経営政策研究科：入学試験実施委員
- 2) 社会工学類：入学試験実施委員
- 3) 社会工学類：コンピュータ委員

張 勇兵

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) Y. Zhang, M. Murata, H. Takagi, and Y. Ji, Traffic-based reconfiguration for logical topologies in large-scale WDM optical networks, IEEE J. of Lightwave Technology (JLT), Vol. 23, No. 10, pp.2854-2867, (October 2005).
- 2) M. Kitajima, N. Kariya, H. Takagi, and Y. Zhang, Evaluation of website usability using markov chains and latent semantic analysis, IEICE Trans. on Communications, Vol. E88-B, No. 4, pp. 1467-1475 (Apr.2005).
- 3) F. Hou, P.H. Ho, X. Shen, and Y. Zhang, Performance Analysis of Differentiated ARQ Scheme for Video Transmission over Wireless Networks, ACM Workshop on Wireless Multimedia Net. & Perf. Modeling (WMuNeP'05), Montreal, Canada, pp. 1-7, (October 2005).
- 4) J. Phuritatkul, Y. Ji, and Y. Zhang, Bandwidth allocation with dynamic wavelength allocation for service differentiation in optical burst switched networks, Proc. Int. Conf. Optical Internet, Chongqing, China, pp. 302-307, June 2005.
- 5) 太田大輔, 張勇兵, 無線 LAN を利用したインターネット上での位置情報システム, 情報処理学会マルチメディア, 分散, 協調とモバイルシンポジウム (DICOMO2005), pp. 620-624, 2005 年 7 月.
- 6) 今崎泰浩, 張勇兵, 無線アドホックネットワークにおける効率的な経路探索法, 情報処理学会システム評価研究会, 2005 年 6 月.

(2) 学会活動

- 1) 電子情報通信学会, テレコミュニケーションマネメント研究専門委員会委員
- 2) Program Committee, International Wireless Communications and Mobile Computing Conference (IWCMC 2006), Vancouver, Canada, July 3-6, 2006.
- 3) Program Committee, Networking 2006, Coimbra, Portugal, May 15-19, 2006.
- 4) Program Committee, Int. Workshop on Sensor Networks (IWSN'06), to be held in conjunction with APWeb 2006, Harbin, China, January 16-18, 2006.
- 5) Program Committee, IEEE Vehicular Technology Conference 2006 - Spring

(VTC 2006), Melbourne, Australia, May 8-10, 2006.

- 6) Program Committee, 2005 IFIP Int. Conf. on Embedded and Ubiquitous Computing (EUC'2005), Nagasaki, Japan, Dec. 6-9, 2005.
- 7) Program Committee and Session Chair, The Asia-Pacific Network Operations and Management Symposium (APNOMS 2005), Okinawa, Japan, Sep. 27-30, 2005.
- 8) Program committee, International Conf. on Mobile Ad-hoc and Sensor Networks (MSN'05), Wuhan, China, Dec. 13-15, 2005.
- 9) Program Committee, Wireless Ad Hoc/Sensor Networks and Network Security Track of International Conference on Information Technology(ITCC 2005), Las Vegas, Nevada, USA, April 11-13, 2005.
- 10) Program Committee, 2005 IFIP Networking Conference (Networking2005), Waterloo, Canada, May 2-6, 2005.
- 11) Program Committee, The Seventh Asia Pacific Web Conference(APWeb'05), Shanghai, China, March 29-April 1, 2005.
- 12) 査読員:Wireless Communications and Mobile Computing Journal (WCMC),IEEE Wireless Communications and Networking Conf. (WCNC2006), IEEE Communication Conf. (ICC2006), Int. J. Wireless and Mobile Computing(IJWMC), IEEE Trans. Reliability, IEEE J. Selected Areas in Communications, World Wide Web Journal (WWWJ), IEICE Trans. Communications, World's Premier International Conference on Wireless Networks, Communications, and Mobile Computing (WirelessCOM 2005), 15th IEEE Int. Symp. Personal, Indoor and Mobile Radio Communications (PIMRC2005), IEEE Workshop on High Performance Switching and Routing (HPSR05), IEEE Int. Communication. Conf. (ICC 2005), Seventh Asia Pacific Web Conference (AP-Web'05).

(3) 研究助成など

- 1) 平成 17 年 科学研究費助成 (A) 分担研究者 品質保証を可能にするマルチサービス光ネットワークアーキテクチャに関する研究

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：情報ネットワーク特論

経営・政策科学研究科：シミュレーション, シミュレーション実習

社会工学類：経営工学情報実習, 経営工学実習, 情報ネットワーク

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 研究科：システム情報工学研究科計算機運用委員会委員（社会システム・マネジメント専攻）
- 2) 研究科：社会工学システム専攻機器購入委員
- 3) 修士課程：機器委員会委員
- 4) 修士課程：サテライト運用委員会委員
- 5) 社会工学類：コンピュータ委員会委員
- 6) 社会工学類：第3学群サブネット委員会委員

堤 盛人

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読付き論文

- 1) Diego Fernando Tanaka, Haruo Isida, Morito Tsutsumi and Naohisa Okamoto: Private Finance for Road Projects in Developing Countries: Improving Transparency through VFM Risk Assessment, Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol.6, pp.3899-3914, 2005.
- 2) Cresencio M. Montalbo Jr., Haruo Ishida, Naohisa Okamoto and Morito Tsutsumi: A Study on the Acceptability of the ETC in Metro Manila and a Framework for Estimating ITS Environmental Benefits, Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol.6, pp.2530-2545, 2005.
- 3) 村井俊治編著 『測量工学ハンドブック』, 朝倉書店, 2005. (分担執筆)
第 12 章第 1 節: 「統計処理」(pp.447-450), 第 12 章第 4 節: 「最小二乗法」
(pp.455-459)

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) 堤盛人・武藤慎一・岡本直久: 大学教育における土地利用モデルの役割と課題: 筑波大学社会工学類における実習を例に, 『土木計画学研究・講演集』, Vol.31, (CD-ROM 講演番号: 176), 2005.
- 2) 石田東生・小川華奈・堤盛人: シーニックバイウェイ HOKKAIDO が地域住民のまちづくりや景観意識に与える効果, 『土木計画学研究・講演集』, Vol.31, (CD-ROM 講演番号: 148), 2005.
- 3) Noriel Christopher C. Tiglao and Morito Tsutsumi: Spatial Microsimulation of Residential and Employment Location Choices in Metro Manila: Towards a Spatial Planning and Decision Support Tool, presented at the of 9th International Conference on Computers in Urban Planning and Urban Management, CUPUM '05, London, UK, June 29-July1, 2005.
- 4) Noriel Christopher C. Tiglao and Morito Tsutsumi: Modeling Households and Location Choices in Metro Manila using Spatial Microsimulation Approach, Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol.5, pp.2179-2194, 2005.

- 5) 石田東生・堤盛人・計良聡範・岡本直久：筑波大学における学内交通システム再編の試み，『土木計画学研究・講演集』，Vol.32，(CD-ROM 講演番号：153)，2005.
- 6) 鯉淵正裕・石田東生・岡本直久・堤盛人・井坪慎二：鯉淵プローブカーの走行記録と道路利用者の渋滞意識を用いた渋滞評価システム，『土木計画学研究・講演集』，Vol.32，(CD-ROM 講演番号：193)，2005.
- 7) Morito Tsutsumi, Haruo Ishida, Naohisa Okamoto and Kosei Suzuki : Modeling Car Trips towards Strategic Allocation of Alternative Fuel Stations, , presented at the 85th Transportation Research Board Annual Meeting, Washington, D.C. January 22-26, 2006 (Compendium of Papers CD-ROM, 06-2631).

(2) 学会活動

- 1) 日本写真測量学会 評議員
- 2) 日本写真測量学会 学術講演会 実行委員会 委員
- 3) 土木学会 生活交通サービス研究小委員会 委員（分科会幹事）
- 4) 国際交通ネットワーク戦略研究小委員会 委員（分科会幹事）
- 5) 査読者：土木学会論文集，土木計画学研究・論文集 No.22，都市住宅学会・第13回学術講演会審査付論文，日本計画行政学会

(3) 研究助成など

- 1) 研究代表者 平成17年度～18年度 文部科学省科学研究費補助金・若手研究(B) 180万円 「我が国の測量業の特徴と今後のあり方に関する研究」
- 2) 研究分担者 平成17年度 国立環境研究所 受託研究 390万円 「技術革新と需要変化を見据えた交通部門のCO2削減中長期戦略に関する研究（リードタイムを考慮した対策技術導入の効果評価と政策手段に関する研究）」（研究代表者：石田東生）
- 3) 研究分担者 平成15年度～17年度 日本学術振興会 科学研究費補助金・基盤研究(C)(2) 110万円 「プローブカーを用いた渋滞計測と評価に関する研究」（研究代表者：石田東生）
- 4) 研究分担者 平成17年度～20年度 文部科学省科学研究費補助金・基盤研究A 1,670万円 「地理情報科学の教授法の確立 - 大学でいかに効果的にGISを教えるか - 」（研究代表者：村山祐司（筑波大学・大学院生命環境科学研究科・教授））

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：交通システム分析演習

経営・政策科学研究科：空間計量管理計画

社会工学類：線形代数，社会基盤整備と地域・国土計画（分担），プロジェクトの評価とファイナンス（分担），都市計画マスタープラン策定実習（共同）・社会基盤政策の未来演習（共同），都市データ分析（分担），東京の都市学（分担）

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 社会工学類：入試実施委員、レポート不正行為防止・処分制度検討臨時委員会委員、クラス担任（4年）
- 2) 大学院システム情報工学研究科：運営委員、オリエンテーション委員、新カリキュラムタスクフォースメンバー

III. 社会的活動

- 1) 社団法人日本測量協会機関誌月刊『測量』編集委員会 委員
- 2) 『東京湾アクアラインの交通・経済等効果検討委員会』 委員
- 3) 財務省 『庁舎等の売却・証券化手法についての検討会』 委員

永易 淳

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) Empirical analysis of the exchange rate channel in Japan, 2007 (予定), Journal of International Money and Finance.
- 2) Japanese stock movements from 1991 to 2005: evidence from high and low frequency data, 2006 (予定), Applied Financial Economics.
- 3) Financial market integration: evidence from stock and bond markets in Japan and the US, 2006 (予定), J. A. Batten, T. A. Fetherston, P. G. Szilagyi (編集) Japanese Fixed Income Markets: Money, Bond, and Interest Rate Derivatives (Elsevier).
- 4) Modeling and predicting Japanese stock returns using the ARFIMA-FIGARCH, 2006 (予定), W.Milo, P.Wdowski (編集) Advances in Financial Market Analysis, Vol. 2, Financial Markets: Principles of Modelling, Forecasting and Decision-Making (Lodz Uni Press).
- 5) Determinants of the Tokyo Stock Price Index: searching for the explanations of the depression, 2005, Global Finance Conference Proceedings (ISBN: 0-9768149-5-1) (Dublin, Trinity college).
- 6) データベースの現状と今後の課題, 2006, 共著: 稲倉典子, 多目的統計データバンク報告書, No. 82 (3月) pp. 1-14 (ISSN 1349-4112).
- 7) Putting the dividend-price ratio under the microscope, 2005, 筑波大学システム情報工学研究科社会システム・マネジメント専攻 Discussion Paper No. 1132.
- 8) Prediction of stock returns using the artificial neural network: evidence from developed and developing countries, 2005, 共著: A. Jennifar, 筑波大学システム情報工学研究科社会システム・マネジメント専攻 Discussion Paper No. 1131.

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) 第12回 Global Finance Conference 2005, Dublin, アイルランド, Determinants of the Tokyo Stock Price Index: searching for explanations of the depression

- 2) 第9回 International Conference on Macroeconomic Analysis and International Finance, Rethymno, **ギリシャ**, Changes in the nature of financial spillover after the Asian crisis (IMF mimeo 2002)
- 3) 第4回 Forecasting Financial Markets and Economic Decision-Making, Lodz, **ポーランド**, The Persistence and predictability of Japanese stock Returns

(2) 学会活動

- 1) レフリー : Global Finance Journal, International Economic Journal
- 2) 国際学会座長 : 第12回 Global Finance Conference 2005, Dublin, **アイルランド**, Return predictability and long-term stock market performance **セッション**
- 3) 国際学会座長 : 第4回 Forecasting Financial Markets and Economic Decision-Making, Lodz, **ポーランド**, Interest rate and exchange rate modelling **セッション**
- 4) 国際学会討論者 : 第9回 International Conference on Macroeconomic Analysis and International Finance, Rethymno, Stocks, bonds, money markets and exchange rates: measuring international financial transmission (M Ehrmann, M. Fratzscherb (以上、ヨーロッパ中央銀行) R Rigobon (MIT)) **ギリシャ**

(3) 研究助成など

- 1) 日本証券奨学財団 (研究代表者)
- 2) 研究科プロジェクト (研究代表者)
- 3) 学術振興野村基金 (研究代表者)
- 4) 石井記念証券研究振興財団 (研究代表者)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科 : 金融システム特論
 経営・政策科学研究科 : 金融分析
 社会工学類 : 国際開発論
 論文指導

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 修士論文委員
- 2) 社会工学類社会経済専攻 3 年次クラス担当
- 3) 新カリキュラム・タスクフォース (サブ)
- 4) レポート提出不正行為処分検討臨時委員
- 5) データバンク委員

III. 社会的活動

- 1) Cass Business School, London, 英国、客員研究員

原嶋 耐治

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) “The Cause of the Great Inflation: Interactions between the Government and the Monetary Policymakers,” EconWPA Working Papers, ewp-mac/0510026.
- 2) “An Estimate of the Elasticity of Intertemporal Substitution in a Production Economy,” EconWPA Working Papers, ewp-mac/0508030.
- 3) “The Pro-cyclical R&D Puzzle: Technology Shocks and Pro-cyclical R&D Expenditure,” EconWPA Working Papers, ewp-mac/0507012.

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

経営・政策科学研究科：日本経済システム論, 特定課題研究

社会工学類：日本経済論, 高齢社会における社会経済システム, 経済学入門Ⅱ, 公共システム演習, 21 世紀少子高齢社会における社会工学政策演習

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 社会工学類：教育図書委員
- 2) 社会システム・マネジメント：修士論文委員会委員

藤川 昌樹

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読付き論文

- 1) 上北恭史・谷村秀彦・坂本淳二・吉田友彦・藤川昌樹・渡辺俊 「北京市豊盛地区四合院住区における共同居住の状況」(『日本建築学会計画系論文報告集』 591, pp.25-31, 2005 年 5 月)
- 2) 湯本桂・後藤治・安藤邦広・藤川昌樹・堀江亨・黒坂貴裕・中野茂夫「近世の筑波山門前における参詣道沿いの町並の変遷について-二階建て家屋を中心に-」(『日本建築学会計画系論文報告集』 598, pp.227-233, 2005 年 12 月)
- 3) 河東義之・藤川昌樹編『真壁の町並み 伝統的建造物群保存対策調査』(茨城県桜川市教育委員会、2006 年 3 月)

ii) その他

- 1) 藤川昌樹「書評 岩淵令治著『江戸武家地の研究』」(『年報都市史研究』 13, pp.134-138, 山川出版社、2005 年 11 月)
- 2) 藤川昌樹「岩淵令治『江戸武家地の研究』について」(第 53 回都市史研究会、東京大学工学部建築学科)

(2) 学会活動

- 1) 作事史料を読む会幹事
- 2) レフェリー(日本建築学会、建築史学会)

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費・基盤研究(B)「街区保存手法の日中比較 北京と京都を事例として」(研究代表者)
- 2) 科学研究費・外国人特別研究員奨励費「伝統的都市空間の変容過程に即した保存・整備手法に関する日中比較研究」(研究代表者)
- 3) 科学研究費・基盤研究(A)「大規模武家文書群による中・近世史料学の統合的研究」(研究分担者)

- 4) 科学研究費・基盤研究（S）「中近世風俗画の高精細デジタル画像化と絵画史料学的研究」（研究分担者）
- 5) 科学研究費・基盤研究（C）「紀ノ川との関係からみた宿場町橋本の建築史的・都市的研究」（研究分担者）

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：都市居住環境史演習

人間総合科学研究科：都市・村落遺産の評価・保存・再生

環境科学研究科：環境計画史、環境科学実習、環境総合実習、環境科学 III

社会工学類：都市環境保全計画、都市空間の歴史、まちづくりと空間設計の歴史と思想、アメニティ創造のまちづくり実習

総合科目：都市・地域・環境を探る

III. 社会的活動

- 1) 室戸市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員（高知県）
- 2) 真壁町伝統的建造物群保存対策調査検討委員会委員（茨城県）
- 3) 真壁城跡整備検討委員会委員（茨城県）
- 4) 講演：藤川昌樹「重要伝統的建造物群保存地区」のしくみと実例」（真壁町伝統的建造物群保存対策調査住民説明会、真壁町上宿会館・高上町会館・新宿会館）

三橋 平

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Alcantara, Lailani L., Hitoshi Mitsunashi, & Yasuo Hoshino. 2005. Interfirm network ties and new buyer acquisition of IJVs. A paper presented at 2005 AIB Southeast Asia Regional Conference - Evolving Structures of World Business: Challenges and Opportunities, Manila, Philippine.
- 2) Mitsunashi, Hitoshi. 2006. Slack search as a driver for path-breaking change. A paper presented at the 2006 Academy of Management Meeting, BPS Division, Atlanta, GA.
- 3) Sine, Wesley D., Robert J. David, & Hitoshi Mitsunashi. 2006. From plan to plant: Effects of certification on operational start-up. A paper presented at the 2006 Academy of Management Meeting, OMT Division, Atlanta, GA.
- 4) Yokota, Riu & Hitoshi Mitsunashi. 2006. The attributive change of executive team members as a lever for strategic change. A paper presented at the 2006 Academy of Management Meeting, BPS Division, Atlanta, GA.
- 5) Greve, Henrich R. & Hitoshi Mitsunashi. 2006. The right one for me: Network evolution and firm heterogeneity. A paper presented at the 2006 European Group for Organization Studies Meeting, Bergen, Norway.
- 6) Alcantara, Lailani L., Hitoshi Mitsunashi, & Yasuo Hoshino. 2006. Overcoming legitimacy-related challenges in international joint ventures. A paper presented at the Academy of International Business 2006 Annual Meeting, Beijing, China.

(2) 学会活動

- 1) アドホック・レビューアー (Organization Science, Management Science, Organization Studies, International Journal of Human Resource Management, Academy of Management Conference, Social Behavior and Personality)

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費 若手 (A)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：経営組織特論

経営・政策科学研究科：組織行動論 II, 経営戦略論特定課題研究

社会工学類：経営の科学, 少子高齢化と雇用・労働システム

(2) 役職・各種委員会委員

1) 大学院カリキュラム TF

2) 修士論文委員

3) 総務委員（アニュアル・レポート、レクリエーション）

III. 社会的活動

1) 筑波大学附属坂戸高等学校「起業基礎」研究開発 研究指導

繆 瑩

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読付き論文

- 1) L. Wang, Z. Cao, T. Okamoto, Y. Miao and E. Okamoto, Authorization-limited transformation-free proxy cryptosystems and their security analyses, IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences E89-A (2006), 106–114.
- 2) R. Tso, Y. Miao, T. Okamoto and E. Okamoto, A share-correctable protocol for the Shamir threshold scheme and its application to participant enrollment, IPSJ Journal 46 (2005), 1880-1888.
- 3) R. Tso, Y. Miao, T. Okamoto and E. Okamoto, How to verify the threshold t of Shamir's (t,n) -threshold scheme, IPSJ Journal 46 (2005), 1824-1833.

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) Y. Miao, Bringing designs, codes and cryptography together, 第32回リスク工学研究会, 筑波大学大学院システム情報工学研究科リスク工学専攻, 2006年1月10日.
- 2) Y. Miao, Further combinatorial constructions for optimal frequency-hopping sequences, Symposium in Honour of Prof. Dr. J. H. van Lint, Conference Center Koningshof, Veldhoven, The Netherlands, October 2–5, 2005.
- 3) Y. Miao, GOB designs: their definition, construction, and application, 「組合せデザインとその周辺における数理的基礎およびそれらの応用」研究集会, 京都大学数理解析研究所, 平成17年8月3日–8月5日.
- 4) Y. Miao, A TWOOA construction for multi-receiver multi-message authentication codes (Invited Talk), The Fifth Shanghai Conference on Combinatorics, Shanghai, China, May 14–May 18, 2005.

(2) 学会活動

- 1) Editor: Graphs and Combinatorics, Springer.
- 2) Editor: Journal of Combinatorial Designs, John Wiley & Sons.

- 3) 主催者:ミニシンポジウム「実験計画法の最近の話題」,平成17年9月22日,倉敷市川西町11-30,加計国際学術交流センター,国際自然科学研究所.
- 4) Program Committee: Workshop on Algebraic Methods in Cryptography, Academic of Mathematics and System Science, CAS, Beijing, China, July 23-24, 2005.
- 5) Referee for: Acta Mathematicae Applicatae Sinica; Designs, Codes and Cryptography; Discrete Mathematics; IEEE Transactions on Information Theory; Journal of Combinatorial Designs; Journal of Zhejiang University; and several international conferences.

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：離散数学と暗号, リスク工学演習

経営・政策科学研究科：実験計画法

社会工学類：統計I, 情報ネットワーク

(2) 役職・各種委員会委員

1) 社会工学類：学生委員

2) 社会工学類：卒業記念論文集編集員

3) 社会工学類：同窓会設立準備委員

4) 社会工学類：4年次クラス担任

5) システム情報工学研究科：社会システム・マネジメント専攻等3専攻：入試実施委員会委員

吉瀬 章子

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) A. Yoshise. “Interior Point Trajectories and a Homogeneous Model for Nonlinear Complementarity Problems over Symmetric Cones,” to appear in SIAM Optimization.
- 2) A.Suzuka, R.Miyashiro, A.Yoshise and T.Matsui. “Dependent Randomized Rounding to the Home-away Assignment Problem in Sports Scheduling”, to appear in IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics.
- 3) A.Suzuka, R.Miyashiro, A.Yoshise and T.Matsui. “The Home-Away Assignment Problems and Break Minimization/Maximization Problems in Sports Scheduling,” Department of Mathematical Engineering and Information Physics, Faculty of Engineering, The University of Tokyo, METR2006-05 1144 (2006).
- 4) A.Yoshise. “Interior Point Trajectories and a Homogeneous Model for Nonlinear Complementarity Problems over Symmetric Cones,” 統計数理研究所 統計数理研究所共同研究レポート 178, 200-235 (2005).
- 5) Y.Lin and A.Yoshise “A Homogeneous Model for Mixed Complementarity Problems over Symmetric Cones,” Institute of Policy and Planning Sciences, University of Tsukuba Discussion Paper Series 1130 (2005).
- 6) A.Suzuka, R.Miyashiro, A.Yoshise and T.Matsui. “Semidefinite Programming Based Approaches to Home-away Assignment Problems in Sports Scheduling,” Lecture Notes in Computer Science 3521, 95-103, Springer-Verlag (2005).

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) Y.Lin and A.Yoshise. “Mixed Complementarity Problems over Symmetric Cones and a Homogeneous Model for the Problems,” IFORS/INFORMS 2005, Honolulu, Hawaii, U.S. (August, 2005).
- 2) A.Suzuka, R.Miyashiro, A.Yoshise and T.Matsui. “SDP Approximations for a HAT Optimization in Sports Scheduling,” IFORS/INFORMS 2005, Honolulu, Hawaii, U.S. (August, 2005).

- 3) Y.Lin and A.Yoshise. “Mixed Complementarity Problems over Symmetric Cones and a Homogeneous Model for the Problems,”SIAM Conference on Optimization, City Conference Centre, Stockholm, Sweden (May, 2005).
- 4) 鈴鹿順美，宮代隆平，吉瀬章子，松井知己．“スポーツのスケジューリングにおける会場割当問題” 電子情報通信学会 2006 年総合大会，国土館大学 (2006 年 3 月) ．

(2) 学会活動

- 1) レフェリー：Mathematical Programming, SIAM Journal on Optimization, Applied Numerical Mathematics, Applied Mathematics and Optimization, European Journal of Operational Research, Japan Journal of Industrial and Applied Mathematics, Optimization Methods and Software, IEICE.
- 2) 編集委員：The Pacific Journal of Optimization

(3) 研究助成など

科研費・受託研究・学内プロジェクトなどの研究助成金の授与

- 1) 科学研究費補助金 基盤 C2 課題番号 155600487「非線形非凸計画問題に対する大域的・発見的ハイブリッド算法の研究」研究分担者

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：数理計画特論 I, 数理計画特論 II

経営・政策科学研究科：数理計画実習

社会工学類：経営工学実習，数理計画，線形代数 II，社会工学特設講義（数学の言葉）

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 筑波大学セーフティー・プロジェクト委員
- 2) システム情報工学研究科 FD 委員
- 3) 社会システム・マネジメント専攻 FD 委員
- 4) 社会工学類 同窓会設立準備委員会委員長

吉野 邦彦

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) Mohawesh, O., Fukumura, K. and Ishida, T. and Yoshino, K. (2005): Soil hydraulic properties in a cassava field as a function of soil dry bulk density, J. Japan Soc. Hydro. and Water Resour., 18(2), pp.156-166.
- 2) Mohawesh, O., Fukumura, K. and Ishida, T. and Yoshino, K. (2005): Assessment of Spatial Variability in Soil and Canopy Properties in a Cassava Field, J. Japan Soc. Hydro. and Water Resour., 18(5), pp.501-509.
- 3) MIYAMOTO, M., YOSHINO, K., KUSHIDA, K., NAGANO, T., (2005), Classification of Wetland Vegetation using Aerial Balloon Photographs and Airborne Color Near Infrared (CNIR) Video Image, Kushiro Northeast Japan, IJG, Vol.1, No.2, pp.3-17
- 4) 森野華代、吉野邦彦、古屋秀樹、石岡義則 (2005)、「コンジョイント分析を用いた厚岸湖・別寒辺牛湿原の自然生態系と景観の環境価値評価」、農業土木学会論文集, Vol.238, pp.9-16
- 5) Yoshino, K., Ishioka, Y. (2005), Guidelines for soil conservation based on the assessment of soil loss risks using remote sensing and GIS in Cidanau watershed of the western Java, Indonesia, PWE, Vol.3, No.4, pp.235-247

(2) 学会活動

- 1) 日本写真測量学会誌 編集委員

(3) 研究助成など

- 1) 文部省科学研究費 基盤 A 海外学術調査 80 万円
- 2) 文部省科学研究費 基盤 A 一般研究 20 万円
- 3) 文部省科学研究費 基盤 C 一般研究 10 万円

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：地域資源管理論

環境科学研究科：環境情報調査表現法

大学院芸術研究科：デジタル・アーカイブ（分担）

社会工学類：都市計画実習, 環境科学とリスクマネジメント, 都市データ分析, 都市計画情報実習

(2) 役職・各種委員会委員

1) 2005 年 3 月～社会工学類都市計画専攻 運営委員会委員

2) 2005 年 3 月～社会工学類 実験廃棄物取り扱い責任者

3) 2005 年 4 月～大学院社会システム・マネジメント専攻 FD 委員

渡辺 俊

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 臂徹・渡辺俊： 郊外型市街地における風俗街の幹線道路沿道表室についての研究 伊勢崎市宮郷地区を事例として、日本建築学会大会学術講演梗概集、2005 年 9 月
- 2) ウィリアム・ミッチェル著・渡辺俊訳： サイボーグ化する私とネットワーク化する世界、NTT 出版、2006 年 1 月
- 3) Shun Watanabe : Toward the Interdependent Spatial Analysis and Design Education, CAADRIA 06 Proceedings of the 11th Conference on Computer-Aided Design Research in Asia、541 ~ 543 頁、2006 年 3 月
- 4) 渡辺俊： 空間情報データベースの構築、平成 17 年度多目的統計データバンク年報、筑波大学 社会工学系、2006 年 3 月

(2) 学会活動

- 1) 日本建築学会
- 2) 都市計画学会
- 3) 地理情報システム学会
- 4) C A A D R I A
- 5) C A A D F u t u r e、

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費補助金（基盤研究（A））地理情報科学の教授法の確立 大学でいかに効果的に GIS を教えるか
- 2) 科学研究費補助金（基盤研究（B））伝統的都市における街区保存手法の日中比較-北京と京都を事例として-
- 3) 科学研究費補助金（基盤研究（A））ハギア・ソフィア大聖堂の修復史とその評価、および今後の修復・保存に関する研究

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：地理情報システム特論

環境科学研究科：環境デザイン論

芸術研究科：デジタルアーカイブ

社会工学類：都市空間の計画とデザイン, 現代まちづくりの理論と実践, アメニティ創造のまちづくり実習, 少子高齢社会における住宅・生活環境システム

(2) 役職・各種委員会委員

1) システム情報工学研究科：予算委員、コンピュータ委員

2) 社会工学類：コンピュータ委員

3) 広報委員

4) 仕様書策定委員

渡辺 真一郎

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) Yonetani, Y., Watanabe, S., & Kanazawa, Y. (forthcoming). On the relationships among organisational family supportiveness, work-family conflict, and turnover intention – Evidence on Japanese men.
- 2) Watanabe, S., & Hammer, T.H. (2006). On constructing an objective measure of effort to predict the amount of effort allocation. The Japanese Journal of Administrative Science, 19, 1, 1-12.
- 3) Watanabe, S., & Hammer, T.H. (2005). On work-related self-adjustment discounting the negative impact of performance-demands discrepancies on situational commitment. Japanese Association of Industrial/Organizational Psychology Journal, 18, 2, 89-99.
- 4) Watanabe, S., & Hammer, T.H. (2005). A cognitive dissonance explanation of the effect of self-adjustment on the relationship between person-situation discrepancy and situational commitment. The Japanese Journal of Administrative Science, 18, 2, 113-126.
- 5) Watanabe, S., & Sunohara, M (2006). For whom do they learn?: A study on salespeople's motive for continuous learning. Association for Psychological Science Proceedings 2006, 238.
- 6) Watanabe, S., & Massaki, T. (2006). Searching for solutions to reduce employee turnover. Association for Psychological Science Proceedings 2006, 349.

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：組織科学特論

経営・政策科学研究科：組織行動論 I, 組織科学特論

社会工学類：経営組織論, 社会調査法および実習, 少子高齢化社会における労働問題

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 全学：AC 専門委員
- 2) 社会工学類：学類入試実施委員, 4 年次担任
- 3) システム情報工学研究科:就職委員, 予算委員

講師

有馬 澄佳

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) S. ARIMA, M. HACHIMORI, K. SAITO, U. SUMITA, “Development of Resource Planning and Execution Management System for Closed-Loop Supply Chain Management,” Procs of Business Aspects of Closed-Loop Supply Chains V, pp.1-12, 2005.

(2) 研究助成など

- 1) 平成 17 年度産学連携共同研究：「半導体装置の故障診断および予測に関する研究」, 研究代表者（住田潮教授と共同）, 株式会社デュラシステムズおよび茨城県産学連携推進課
- 2) 2005 年度システム情報工学研究科 教員当教育研究科研究基盤経費 重点配分（システム情報工学研究科）, 代表者（分担者：住田潮教授, 協力者：山本芳嗣教授）, 「e-Learning Open System の実現へ向けた教育システムのモデル化と効率的・効果的な講義資料の蓄積システムとその運用方法、教育部品の整備」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：生産流通情報システム特論

経営・政策科学研究科：オペレーション管理

社会工学類：フレッシュマンセミナー, プログラミング実習 I (2 学期補助)

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) システム情報工学研究科： 広報委員,
- 2) 経営・政策科学研究科： カリキュラムサブタスクフォース

- 3) 社会工学類： 広報委員, クラス担任
- 4) 社会工学系： 防災委員

III. 社会的活動

- 1) 社団法人 電子情報技術産業協会 半導体生産技術専門委員会 客員
- 2) 日本半導体製造装置協会 e-Manufacturing 委員会 客員
- 3) 愛・地球博（愛知万博 2005）, 東北 JC 発信ブース「日本の民話を世界に」,
社団法人日本青年会議所東北地区協議会依頼の東北 6 県を中心とする日本の
民話 20 篇の英語・中国語翻訳担当 (兼・留学生支援)

石川 竜一郎

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 論文

- 1) “Communication Protocols with Belief Messages,” forthcoming in *Theory and Decision*.
- 2) “Equilibrium Refinement Problems in Cheap-talk Games,” 京都大学数理解析研究所「講究録」に掲載予定.

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) “Revision of Beliefs with Perceived Experiences in Info-memory Protocols.”
 1. 大阪市立大学経済学会定例研究会、2005 年 6 月 10 日.
 2. Logic, Game theory, and Social choice 4 (LGS 4), Caen, France, June 22-24.
 3. Society for the Advancement of Economic Theory 2005 (SAET2005), Vigo, Spain, June 27-July 3.
 4. ミクロ経済学・ゲーム理論セミナー, 筑波大学. 9 月 8 日.
 5. The 11th Decentralization Conference, Hosei University, September 15.
 6. 日本経済学会秋季大会, 中央大学、9 月 17 日.
 7. The 2rd Pan-Pacific Conference on Game Theory, Academia Sinica, Taiwan, Nov. 24-26.
 8. ミクロ経済学・ゲーム理論研究会, 京都大学経済研究所, 2 月 9 日.

(2) 学会活動

- 1) レフェリー: Economic Theory, 経済学雑誌 (大阪市立大学経済学会).

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

社会工学類: 微積分 I, 情報リテラシー演習, 社会工学実習.
総合科目: 経済学入門 III.

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学類：総務委員, 予算委員, 2年次クラス担任

上市 秀雄

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) 上市秀雄・楠見孝 環境ホルモンのリスク認知とリスク回避行動, 認知科学, 13, 32-46, 2006.

ii) その他

- 1) 上市秀雄・高橋由直 意思決定スタイルや選択コストが感情の時間的变化に及ぼす影響, 日本心理学会第 69 回大会発表論文集, 917, 2005.
- 2) 上市秀雄 進路意思決定における認知・感情過程, 日本心理学会第 69 回大会発表論文集, W10, 2005 .
- 3) 楠見孝・上市秀雄・平山るみ 内分泌攪乱物質のリスク認知過程と個人差, 平成 16 年度厚生労働科学研究費補助金 化学物質リスク研究事業 内分泌攪乱物質のリスクコミュニケーションに関する研究 (H14 - 食品・化学 - 19) (主任研究者: 吉川肇子) 研究報告書, 80-109, 2005.

(2) 研究助成など

- 1) 科学研究費補助金基盤 (C)(2) 「逸脱行動が生起するプロセスと矯正方法に関する研究」(研究代表者)
- 2) 科学研究費補助金基盤 (B)(1) 「進路意思決定における認知感情過程のモデル化」(研究分担者)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

経営・政策科学研究科：意思決定分析, 行動システム特論
社会工学類：経済行動論, 社会経済システム情報演習

大久保 正勝

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) Okubo, M. “Public Capital and Productivity: A Nonstationary Panel Analysis, Applied Economics Letters, forthcoming.
- 2) 大久保正勝「財政政策の効果測定手法について」『財政政策の効果測定手法に関する調査研究』財団法人財政経済協会編，第3章，pp.33–44.

(2) 学会活動

- 1) レフェリー：Journal of Money, Credit, and Banking; Journal of the Japanese and International Economies; 金融経済研究

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費補助金 若手研究 (B) (研究代表者)
- 2) 筑波大学大学院システム情報工学研究科 基盤研究費重点配分 (研究代表者)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

経営・政策科学研究科：計量経済学実習

社会工学類：社会工学実習，マクロ経済学，21世紀少子高齢社会における社会工学政策演習

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 大学院3専攻：予算委員
- 2) 社会工学類：学類運営幹事，学生委員，クラス担任 (3年次)

後藤 順哉

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読付き論文

- 1) Gotoh, J. and Takano, Y. (2006), “Newsvendor Solutions via Conditional Value-at-Risk Minimization,” to appear in European Journal of Operational Research.
- 2) Gotoh, J. and Konno, H. (2006), “Minimal Ellipsoid Circumscribing a Polytope Defined by a System of Linear Inequalities,” Journal of Global Optimization, 34, pp.1-14.
- 3) Gotoh, J. and Takeda, A. (2005), “A Linear Classification Model Based on Conditional Geometric Score,” Pacific Journal of Optimization, 1, pp.277-296.

ii) その他論文

- 1) Gotoh, J. and Takeda, A. (2006), “Conditional Minimum Volume Ellipsoid with Applications to Subset Selection for MVE Estimator and Multiclass Discrimination,” 筑波大学社会システムマネジメント ディスカッションペーパーシリーズ No.1140. Univ. of Tsukuba.
- 2) Jin, H. Gotoh, J. and Sumita, U. (2005), “A New Approach for Computing Option Prices of the Hull-White Type with Stepwise Reversion and Volatility Functions,” 筑波大学社会システムマネジメント ディスカッションペーパーシリーズ No.1138. Univ. of Tsukuba.
- 3) Gotoh, J., Sumita, U. and Jin, H. (2005), “On Evaluation of Dynamic Behavior of Modified Ornstein-Uhlenbeck Processes with Various Boundaries,” 筑波大学社会システムマネジメント ディスカッションペーパーシリーズ No.1122. Univ. of Tsukuba.

iii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) “Conditional Minimum Volume Ellipsoid with Applications to Statistical Methods,” 研究集会「最適化：モデリングとアルゴリズム」, (統計数理研究所, 東京), 2006 年 3 月.

- 2) “Conditional Value-at-Risk Minimization for Newsvendor Problem,” International Conference on Financial Engineering, (University of Florida, Gainesville, U.S.A.), 2006 年 3 月.
- 3) “条件付最小楕円と多クラス判別への応用,” 日本オペレーションズ・リサーチ学会 春季発表大会, (中央大学, 東京), 2006 年 3 月.
- 4) “A Linear Classification Model Based on Conditional Geometric Score,” 日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研究事業「医療システムと倫理」(「医療システムと医療専門家組織、保険者、民間保険機関の役割」) 研究集会, (大阪府立大学, 大阪), 2006 年 2 月.
- 5) “The Downside Risk-Averse News-Vendor Minimizing Conditional Value-at-Risk,” The 3rd Sino-Japanese Optimization Meeting, (Orchard Parade Hotel, Singapore), 2005 年 11 月.
- 6) “CVaR 最小化とその応用,” 日本オペレーションズ・リサーチ学会 第 17 回数理計画法 (RAMP) シンポジウム, (弘前シティホテル, 弘前), 2005 年 10 月.

(2) 学会活動

査読 (Transactions of the Operations Research Society of Japan; IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences)

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費補助金 (若手研究 (B)) 「パラメータの推定誤差を考慮した CVaR 最小化に基づく金融リスク制御」
- 2) 受託研究：「信用リスク制御に関する問題解法」及び「OU プロセス吸収壁問題数値解法」みずほ第一フィナンシャルテクノロジー株式会社 (住田潮教授、山本芳嗣教授と共同 平成 16 年 1 月 ~)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

経営・政策科学研究科：ファイナンス理論 II、ファイナンス：理論と実践
社会工学類：社会工学実習、ファイナンス II、計算機科学

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 社会工学類：2 年生クラス担任

- 2) 経営政策科学専攻：入試実施委員
- 3) 社会システム工学専攻：新カリキュラム・タスクフォース

近藤 文代

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) 阿部誠・近藤文代 (2005), マーケティングの科学, 朝倉書店 (ISBN : 4-254-12783-9).
- 2) Kondo, Fumiyo N. & Ohta, Koji (2005), "Simulation Study on Dynamic Multinomial Probit Model Focusing on New Brand Entry" in Proceedings of International Symposium on The Art of Statistical Metaware, ISM Report on Research and Education, , No.21, pp282-283.
- 3) Uwadaira, Yasuhiro and Kondo, Fumiyo N. (2005), "Direct Mail Promotion Effects on the Responses of Beauty Salon Customers: Mobile DM Coupons vs. Postcards", in the Proceedings in the 5th Annual Hawaii International Conference on Business, pp.3556-3573.

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) Kondo, Fumiyo N. & Ohta, Koji (2005), "Simulation Study on Dynamic Multinomial Probit Model Focusing on New Brand Entry", March 14-16, 2005 - Tokyo, Japan
- 2) Uwadaira, Yasuhiro and Kondo, Fumiyo N. (2005), "Direct Mail Promotion Effects on the Responses of Beauty Salon Customers: Mobile DM Coupons vs. Postcards", May 26-29, 2005 - Waikiki, USA.
- 3) 近藤文代, 平成 17 年度教育プロジェクト報告書 , pp.17-56, 平成 18 年 3 月.
- 4) 近藤文代, 太田耕司, Simulation Study on Dynamic Multinomial Probit Model, 2005 年度統計関連学会連合大会, 広島, 2005 年 9 月 13 日 ~ 15 日.

(2) 研究助成など

- 1) 意思決定主体の異質性を考慮したマーケティング・モデルの開発と応用 (分担者) : 50 万円

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：マーケティング特論

経営・政策科学研究科：マーケティング・サイエンス

社会工学類：プログラミング実習，マーケティング工学

(2) 役職・各種委員会委員

1) 社会工学類：授業評価担当委員

2) 社会工学類：カリキュラム委員

斎尾 直子

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 斎尾, 三重野「農村地域における地域運営型まちづくり組織の特性と役割 - 都心・郊外都市における地域運営事例との比較から - 」農村計画学会 農村計画論文集第7集, 217-222, 2005.12
- 2) SAIO “A STUDY ON THE CO-OPERATION AND INTEGRATION OF UNIVERSITY CAMPUSES INTO THEIR SURROUNDING CITY ENVIRONMENT IN SOUTH EAST ASIA” Proceedings The 5th International Symposium on City Planning and Environmental Management in Asian Countries, 261-268, 2006.1
- 3) SAIO et al. “COMPARATIVE STUDY BETWEEN THE UNIVERSITY CAMPUS MASTER PLANS” Proceedings The 5th International Symposium on City Planning and Environmental Management in Asian Countries, 249-260, 2006.1
- 4) SAIO et al. “FORMATION OF SMOKING SPACE IN UNIVERSITY CAMPUS” Proceedings The 5th International Symposium on City Planning and Environmental Management in Asian Countries, 239-248, 2006.1
- 5) 清水, 斎尾他「農村計画研究における「領域」の捉え方」農村計画学会誌, 24巻1号, 2005.6
- 6) 仲村, 斎尾「大学生のキャンパス及び周辺地域での過ごし方と地域活動参加に関する研究」日本建築学会学術講演梗概集オーガナイズド・セッション, F-1, 53-56, 2005.9
- 7) 文部科学省 平成17年度『先導的大学改革推進委託事業』研究報告書「今後の「大学像」の在り方に関する調査研究：校地・校舎」2006.3（分担）
- 8) 文部科学省委託調査研究 日本建築学会『大学等施設の実態把握に関する調査研究委員会「大学等施設の実態把握に関する調査研究 報告書」』2006.3（分担）

(2) 学会活動

- 1) 日本建築学会 農村計画委員会 本委員会幹事
- 2) 日本建築学会 農村計画委員会 ラーバンデザイン小委員会委員

- 3) 日本建築学会 都市計画委員会 キャンパス計画小委員会委員
- 4) 日本建築学会 木造廃校舎の利活用特別研究委員会幹事
- 5) 日本建築学会 関東支部農村建築専門研究委員会委員
- 6) 農村計画学会 評議員
- 7) 農村計画学会 査読委員会委員
- 8) 都市住宅学会 編集委員会委員

(3) 研究助成など

- 1) 平成 17-18 年度科学研究費補助金 萌芽研究 (研究代表者, 課題番号 17658101) 「現代農村地域社会におけるまちづくり活動の機能重視型アソシエーション化に関する研究」
- 2) 平成 17-18 年度科学研究費補助金 基盤研究 (C)(1)(一般) (分担者, 課題番号 17560551) 「環境配慮型大学キャンパス・マスタープラン創出における都市政策との連携に関する研究」
- 3) 平成 16-17 年度科学研究費補助金 基盤研究 (B)(1)(一般) (分担者, 課題番号 16360297) 「都市環境再生を目標とした大学と地域の持続的連携計画マネジメントに関する研究」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：公共空間計画，地域施設計画演習

社会工学類：社会工学実習，都市空間の計画とデザイン，アメニティ創造のまちづくり実習，少子高齢社会の住宅・生活環境システム，総合演習（社会システム分析），町並みリフォーム演習

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 学類・大学院：クラス担任，広報委員会委員，経営政策科学研究科入試実施委員
- 2) 全学：施設計画室員（学生宿舍改善計画 WG 委員），障害学生支援委員会委員，体育センター運営委員会委員

III. 社会的活動

- 1) 文部科学省平成 17 年度 『先導的大学改革推進委託事業「今後の「大学像」の在り方に関する調査研究：校地・校舎」』研究会委員
- 2) 文部科学省（日本建築学会受託）平成 17 年度 『大学等施設の実態把握に関する調査研究』委員会委員

新谷 由紀子

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 菊本虔，新谷由紀子「大学等発ベンチャーの課題と推進方策に関する調査研究」平成 17 年度文部科学省 21 世紀型産学連携手法の構築に係るモデルプログラム成果報告書，2006.3
- 2) 新谷由紀子，菊本虔「産学連携における利益相反ルールの形成に関する実証的研究」2005.5

(2) その他

- 1) 電気学会優秀論文発表賞受賞 (2005.8.22) (新谷由紀子，菊本虔「大学から産業界への技術移転の方法と課題」電気技術史研究会資料 HEE-04-6，pp.7-12，2004.7 発表による)

II. 教育・業務活動

(1) 役職・各種委員会委員

- 1) 産学リエゾン共同研究センター運営委員会委員

八森 正泰

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) Sonoko Moriyama and Masahiro Hachimori, Note: h -Assignments of simplicial complexes and reverse search, Discrete Applied Mathematics **154** (2006), 594-597.

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) 八森正泰, 単体的複体の分割に関する問題について, RIMS 短期共同研究『グラフの変形とその数量的評価』, 京都大学数理解析研究所, 2005年9月26-30日.

(2) 研究助成など

- 1) 科学研究費補助金(若手研究(B))「単体的複体のトポロジース組合せ論とグラフの非巡回的向き付け上の最適化問題の研究」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：情報基礎数理特論

社会工学類：情報リテラシー, 社会工学実習, プログラミング実習

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 社会工学類: コンピュータ委員, 入試実施委員
- 2) 大学院3専攻合同: コンピュータ委員

原田 信行

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読付き論文

- 1) 原田信行, 「開業者の労働時間」, 忽那憲治・安田武彦編著『日本の新規開業企業』第3章, pp. 55-74, 白桃書房, 2005.
- 2) Harada, N. and K. Kijima, “ Consumption-Leisure Preference Structure: A New Explanation of the Evans-Jovanovic Results for Entrepreneurial Choice ”, Small Business Economics 24(2), pp. 187-191, 2005 (Erratum, 24(4), pp. 423-427, 2005).
- 3) Harada, N., “ Potential Entrepreneurship in Japan ”, Small Business Economics 25(3), pp. 293-304, 2005.
- 4) Harada, N. and Y. Honjo, “ Does the Creative Business Promotion Law Enhance SMEs’ Capital Investment? Evidence from a Panel Dataset of Unlisted SMEs in Japan ”, Japan and the World Economy 17(4), pp. 395-406, 2005.

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) 原田信行, 「小規模企業の退出」, 日本経済学会 2005 年度春季大会.
- 2) 原田信行, 「中小企業の景況感」, 日本経済学会 2005 年度秋季大会.

iii) その他

- 1) Harada, N. “ Video Game Demand in Japan: A Household Data Analysis - Revised ”, Department of Social Systems and Management Discussion Paper No. 1126, 2005.
- 2) Harada, N. “ Which Firms Exit and Why? An Analysis of Small-Firm Exits in Japan ”, Department of Social Systems and Management Discussion Paper No. 1129, 2005.

(2) 研究助成など

- 1) 科学研究費補助金, 若手研究 (B), 「中小企業の資金調達環境と政策のあり方」.

(3) その他

- 1) 商工総合研究所平成 17 年度中小企業研究奨励賞・本賞 (忽那憲治・安田武彦
編著『日本の新規開業企業』白桃書房), 2006.

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

経営・政策科学研究科：計量経済学 II

社会工学類：金融論, 統計学 I, フレッシュマン・セミナー

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 社会工学類：クラス担任, 学生委員, 新入生オリエンテーション委員
- 2) システム情報工学研究科 3 専攻：入試実施委員

III. 社会的活動

- 1) 経済産業研究所「中小企業研究会」委員

藤井 さやか

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 藤井さやか (2005)「超高層マンションをめぐる紛争の諸相」 矢作弘・小泉秀樹編『シリーズ都市再生 成長主義を超えて - 大都市はいま』 pp.58-75 日本経済評論社.
- 2) 藤井さやか・大塚真・小泉秀樹・大方潤一郎 (2005)「詳細な地区基準の策定に向けた絶対高さ型高度地区の活用可能性：平成 16 年度用途地域見直しに伴う東京都下自治体の地区指定状況から」都市計画論文集 40-3 pp.583-588.
- 3) 野澤千絵・藤井さやか (2005)「地域合意を踏まえたマンション開発の実現手法に関する研究」住宅総合研究財団研究論文集 No.31 2004 年版 pp.103-112.
- 4) 藤井さやか『マンション紛争の構造と既成市街地更新コントロール手法に関する研究』東京大学大学院博士学位論文 2005.7.21.
- 5) 藤井さやか (2005)「天空率と市街地環境」(日本建築学会建築法制委員会集団規定の性能規定問題検討小委員会編『天空率導入による斜線制限緩和手法』研究懇談 会資料 pp.57-61) .

(2) 学会活動

- 1) 日本建築学会法制委員会集団規定の性能規定化問題検討小委員会委員
- 2) 日本都市計画学会国際委員会委員

(3) 研究助成など

- 1) 平成 17 年度科学研究費補助金特別研究員研究奨励費 (研究代表者)
- 2) 財団法人住宅総合研究所研究助成 (研究分担者)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

社会工学類：Introduction to Urban and Regional Planning, 都市マスタープラン実習

III. 社会的活動

- 1) 守谷市総合計画審議会委員
- 2) 渋谷区まちづくり審議会土地利用専門部会専門委員

水野 誠

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) Mizuno, Makoto, Akira Saji, Ushio Sumita and Hideo Suzuki, Optimal Threshold Analysis of segmentation Methods for Identifying Target Customers, Department of Social Systems and Management Discussion Paper Series, No.1136, University of Tsukuba, 2005.
- 2) 鈴木秀男, 水野誠, 住田潮, 佐治明, CRMのための優良顧客識別手法の特性評価と財務成果, Department of Social Systems and Management Discussion Paper Series, No.1123, University of Tsukuba, 2005.

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) 水野誠, 関利之, クリエイティブ・ライフ～仕事、生活、消費の新しい潮流, 第30回消費者行動研究コンファレンス. 2005年6月4日.
- 2) 水野誠, “ 予言する ” 消費者たち～需要を先取りする顧客の発見, 日本マーケティング・サイエンス学会第77回研究大会. 2005年6月12日.
- 3) Mizuno, Makoto, Takahiro Hoshino and Shigeyoshi Takemura, Assessing Short-term Effectiveness of TV Advertising via the Propensity Score, Marketing Science Conference at Emory University. 2005年6月17日.
- 4) 水野誠, 竹村滋芳, 星野崇弘, TV広告の購買に対する短期効果の検証～傾向スコアの適用, 日本行動計量学会第33回大会. 2005年8月27日.
- 5) 山本晶, 水野誠, 消費者間影響関係の研究枠組み：レビュー, 日本マーケティング・サイエンス学会第78回研究大会. 2005年12月11日.
- 6) 井上正一郎, 水野誠, 消費者間ネットワークの生成とリーダー特性の研究, 第6回 KK-MAS コンペティション, 2006年3月11日

(2) 学会活動

- 1) レフェリー：国民経済雑誌（神戸大学）、経営情報学会誌、日本マーケティング・サイエンス学会誌

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費補助金・基盤研究 (C)(2)「消費者選好の形成と変化に関する研究」
吉田秀雄記念事業財団研究助成「グローバル市場における広告主～広告会社のパートナーシップに関する比較実証研究」

(4) その他

- 1) 「第6回KK-MASコンペティション」部門2(研究利用)で佳作受賞(2006/3/11)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

経営・政策科学研究科：マーケティング, MBA演習

社会工学類：マーケティング, 経営工学基礎演習, フレッシュマン・セミナー

(2) 他大学における講義

- 1) 県立長崎シーボルト大学・非常勤講師(情報経営論)
- 2) 東京工業大学経営システム工学科・非常勤講師(マーケティング管理)
- 3) 同・大学院経営工学専攻・非常勤講師(マーケティング)

III. 社会的活動

- 1) 日本能率協会「新商品開発とマーケティング・リサーチ」講師

柳原 宏和

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読付き論文

- 1) 柳原 宏和, 非正規データにおける情報量規準を用いた共分散構造モデルの選択問題 - 「日本人の国民性調査」データへの適用 -, 統計数理 (特集号: 日本人の国民性調査 50 年), 53, (2005), 133-157.
- 2) H. Yanagihara and C. Ohmoto, On distribution of AIC in linear regression models, Journal of Statistical Planning and Inference, 133 (2005), 417-433.
- 3) 能本 美穂, 吉本 敦, 柳原 宏和, 木材生産を通じた炭素の収支分析, 日本森林学会誌, 87 (2005), 313-322.
- 4) H. Yanagihara, T. Tonda and C. Matsumoto, The effects of nonnormality on asymptotic distributions of some likelihood ratio criteria for testing covariance structures under normal assumption, Journal of Multivariate Analysis, 96 (2005), 237-264.
- 5) H. Yanagihara and K.-H. Yuan, Four improved statistics for contrasting means by correcting skewness and kurtosis, British Journal of Mathematical and Statistical Psychology, 58 (2005), 209-237.
- 6) H. Yanagihara and A. Yoshimoto, Statistical procedure for assessing the amount of carbon sequestered by sugi (*Cryptomeria japonica*) plantation. Multipurpose Inventory for the Aged Artificial Forest (eds. Y. Nobori, N. Takahashi & A. Yoshimoto), (2005), 125-140, Japan Society of Forest Planning Press, Utsunomiya.
- 7) H. Yanagihara and K.-H. Yuan, Three approximate solutions to the multivariate Behrens-Fisher problem. Communications in Statistics Simulation and Computation, 34 (2005), 975-988.
- 8) H. Yanagihara and M. Ohtaki, A family of regression models having a partially additive and multiplicative structure on their covariates. Bulletin of Informatics and Cybernetics “Special Issue in Honor of Professor Takashi Yanagawa, Part II”, 37 (2005), 49-64.
- 9) 吉本 敦, 柳原 宏和, 二宮 嘉行, 多変量線形モデルによる林分成長要因探索のための変数選択. 日本森林学会誌 (特集号: 森林計画最前線 - 緑豊かな森林の育成を目指した最新研究の紹介), 87 (2005), 504-512.

- 10) Y. Fujikoshi, H. Yanagihara and H. Wakaki, Bias corrections of some criteria for selecting multivariate linear models in a general nonnormal case. American Journal of Mathematical and Management Sciences “25th Anniversary of the Thomas L. Saaty and Jacob Wolfowitz Prizes: New Advances and Applications by Prize Winners II”, 25 (2005), 221-258.
- 11) 柳原 宏和・吉本 敦・二宮 嘉行, 複数の成長パターンを持つスギ単純同齡林における炭素固定量予測. 森林資源管理と数理モデル Vol. 5, - FORMATH KYOTO 2005 - (吉本敦・近藤洋史・広嶋卓也 編集), (2006), 63-83, 森林計画学会出版局, 東京.

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) H. Yanagihara, Corrected version of AIC for selecting covariance structures in a general nonnormal case, The 70th Annual Meeting of the Psychometric Society, Tilburg University, Tilburg, Netherlands, July 5-8, 2005.
- 2) 柳原 宏和, 情報量規準を用いた非正規共分散構造モデルの選択問題 - 「日本人の国民性調査」データへの適用 -, 日本行動計量学会第 33 回大会, 長岡, 2005 年 8 月 27 日 ~ 29 日.
- 3) 柳原 宏和, 藤澤 洋徳, ダイバージェンスに基づくクロスバリデーション規準のバイアスとその補正, 2005 年度 統計関連学会 連合大会, 広島, 2005 年 9 月 13 日 ~ 15 日.
- 4) H. Yanagihara, T. Tonda and C. Matsumoto, Bias correction of cross-validation criterion based on Kullback-Leibler information under a general condition, International Conference on Statistics, Combinatorics, Mathematics and Applications and Twelfth International Conference of The Forum for Interdisciplinary Mathematics, Auburn University, Alabama, USA, December 2-4, 2005.

iii) その他

- 1) H. Yanagihara, K. Kamo and T. Tonda, Second-order bias-corrected AIC in multivariate normal linear models under nonnormality. Technical Report No. 06-01, Statistical Research Group, Hiroshima University.
- 2) K. Kamo, S. Kaneko, K. Satoh, H. Yanagihara, S. Mizuno and T. Sobue, A method to estimate cancer incidence with consideration of incidence mortality ratio from population-based cancer registries in Japan. Technical Report No. 06-02, Statistical Research Group, Hiroshima University.

- 3) H. Yanagihara, Conditions for robustness to nonnormality of test statistics in GMANOVA model. Technical Report No. 06-03, Statistical Research Group, Hiroshima University.
- 4) K.-H. Yuan, K. Hayashi and H. Yanagihara, A class of population covariance matrices for Monte Carlo simulation. Technical Report No. 06-06, Statistical Research Group, Hiroshima University.

(2) 学会活動

- 1) 委員: 日本統計学会 75 周年事業委員会, 若手委員.
- 2) レフリー: Annals of the Institute of Statistical Mathematics, Asia-Pacific Financial Markets, Communications in Statistics - Theory and Methods, Journal of Multivariate Analysis, Journal of Statistical Planning and Inference, Mathematical Methods of Statistics, 応用統計学, Test - A Journal of the Spanish Statistical Society.
- 3) その他: 2005 年度 統計関連学会 連合大会, 多変量解析 (3) 座長.

(3) 研究助成など

- 1) 文部科学省科学研究費補助金 (若手研究 (B), 代表者), 「共分散構造モデルにおける情報量規準を用いたモデル選択法とその非正規性の影響」, 課題番号 17700274.
- 2) 文部科学省科学研究費補助金 (基盤研究 (B) (2), 分担者), 「不確実環境における森林資源最適確率制御モデルによる炭素固定の経済分析」, 課題番号 15330048.
- 3) 文部科学省科学研究費補助金 (基盤研究 (B) (2), 分担者), 「多変量解析における変数選択問題に関する理論的基礎と応用」, 課題番号 15300092.

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

経営・政策科学研究科: 統計学 I

社会工学類: フレッシュマンセミナー, 線形代数 I, 統計学 II, プログラミング実習

山鹿 久木

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 岩田真一郎・山鹿久木 (2005) 「住宅所有者の転売とリフォーム」、『都市住宅学』No.51.
- 2) Masayuki Nakagawa, Makoto Saito, and Hisaki Yamaga, “Earthquake risks and housing rents: Evidence from the Tokyo Metropolitan Area,” Center of Excellence, Hitotsubashi University, Discussion Paper Series 2005-111.
- 3) 山鹿久木 (2005) , パネルディスカッション報告『都市住宅学』No.48, pp.49-58.
- 4) Mitsuhashi, Hitoshi, Wesley W. Sine, & Hisaki Yamaga. 2005. The Effects of Density and Crowding on Market Entry Behavior in Geographical Space. A paper presented at the 2005 Academy of Management Meeting, Honolulu, Hawaii.
- 5) Iwata, S. & Yamaga, H. (2006), “Rental Externality, Tenure Security, and Housing Quality,” Department of Social Systems and Management, Discussion Paper Series No.1141, University of Tsukuba.
- 6) Iwata, S. & Yamaga, H. (2006), “Resale Externality and Used Housing Market”, Department of Social Systems and Management, Discussion Paper Series, No. 1142, University of Tsukuba.
- 7) 2005 年 11 月、「住宅所有者の転売とリフォーム」、都市住宅学会（筑波大学）
- 8) 2005 年 12 月、「市場参入行動に与える密度と集積の影響：日本のホテル産業における実証分析」、応用地域学会（明海大学）

(2) 学会活動

- 1) 都市住宅学会関東支部（常議員）
- 2) 都市住宅学会（総務企画委員、編集委員）

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費 若手研究 (B)、基盤研究 (C)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

社会工学類：微積分 II、環境経済評価論、都市成長管理論演習

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 防災隊員
- 2) 学類予算委員
- 3) 学類図書委員

(3) 他大学における講義

- 1) 国土交通大学校

III. 社会的活動

- 1) 都市集積研究会委員（経済産業研究所）
- 2) 東アジアの経済統合と都市集積研究会委員（経済産業研究所）
- 3) 今後の流通課税のあり方に関する調査研究会委員（全国宅地建物取引業協会連合会）

吉田 謙太郎

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書、論文

- 1) Yoshida, K. “Benefit Transfer of Stated Preference Approaches to Evaluate Local Environmental Taxes.” The 21st COE Program at Graduate School for International Development and Cooperation, Hiroshima University Discussion Paper Series Vol.2005-7, pp.1-10.
- 2) Hashimoto, K., T.Nakamura, I.Wada, K.Yoshida, S.Satoh, M.Abo, H.Seta, and M.Ohashi “How Great is Willingness to Pay for Recovery from Sequelae after Severe Traumatic Brain Injury in Japan?” Journal of Rehabilitation Medicine, 38, pp.141-143, 2006.
- 3) Yoshida, K. “Ordered Probit Analysis of Farm-Inn Operations in Japan.” Journal of Rural Economics, Vol.76 No.5, pp.18-29, 2005.
- 4) Yoshida, K., and H.H. Peterson “Japanese Perception of Safety and Willingness-to-Pay for Imported Rice.” In Huang Z., K.Z.Chen, and M. Shi (eds), Food Safety: Consumer, Trade, and Regulation Issues, Zhejiang University Press, pp.164-170, 2005.
- 5) 寺田憲治・吉田謙太郎「棚田オーナー制度の持続性に関する要因分析」『農村計画論文集』7, pp.211-216, 2005.
- 6) 伊藤寛幸・吉田謙太郎・山本康貴・出村克彦「農業集落排水事業における便益移転の可能性検証」『農業土木学会論文集』第238号, pp.434-442, 2005.
- 7) 石田章・井本浩樹・吉田謙太郎「棚田オーナー制度の持続性に関する考察 島根県柿木村の事例」『農業経済論集』55(2), pp.1-11, 2005.
- 8) Yoshida, K. and K. Demura “An Economic Evaluation of Negative and Positive Externalities of Japanese Agriculture.” Conference Proceedings of 2005 REST-KAEA International Conference on Agricultural Economics and Resources, pp.397-413, 2005.

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) Yoshida, K., and K. Demura “A Stated Preference Approach to Value Environmental Benefits of Local Environmental Taxes.” The 7th International conference of the Russian Society for Ecological Economics, June 2005.

- 2) 寺田憲治・吉田謙太郎「棚田オーナー制度の持続性に関する要因分析」農村計画学会.

(2) 学会活動

- 1) 環境経済・政策学会 理事
- 2) 農村計画学会 編集委員
- 3) 農業経済学会 編集委員
- 4) 査読委員 (環境経済・政策学会, 環境科学会, Environmental Science & Policy 他)

(3) 研究助成など

- 1) 文部科学省科学研究費補助金若手研究 (B), 地方環境税導入のための効率的な意思決定支援手法の研究
- 2) 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (B)(2), 草地生態系の物質循環機能を考慮した酪農の持続的生産体系と LCA 分析 (分担)
- 3) 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (B)(1), 循環型社会形成に調和する日本型農業モデルの構築 (分担)
- 4) 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (B)(2), 都市環境創造における政策過程・政策成果と社会的能力に関する研究 (分担)
- 5) ニッセイ財団環境問題研究助成, 日本漁業における多面的機能に関する問題の整理と展望 (分担)

(4) その他

- 1) 財団法人農学会日本農学進歩賞

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：環境経済政策学特論

環境科学研究科：循環型社会システム論, 環境総合アセスメント, 環境統計分析法, 環境政策評価論

社会工学類：プロジェクトの評価とファイナンス, 都市と環境の経済学, 社会調査実習, 都市計画マスタープラン策定実習

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) システム情報工学研究科社会システム・マネジメント専攻：総務委員長
- 2) 社会工学類：2年生クラス担任, 新入生オリエンテーション委員

(3) 他大学における講義

- 1) 中央大学（非常勤講師）

III. 社会的活動

- 1) 国家公務員採用試験専門試験委員
- 2) 防災科学技術研究所「災害に強い社会システムに関する実証的研究」客員研究員
- 3) (財)リバーフロント整備センター「河川環境整備に関わる CVM を適用した経済評価検討会」委員
- 4) 漁港漁場漁村技術研究所「漁村振興活性化対策調査」委員
- 5) 広島大学大学院国際協力研究科「21世紀 COE プログラム社会的環境管理能力の形成と国際協力拠点」共同研究者
- 6) 政策研究大学院大学「文化庁委嘱事業「文化芸術振興による経済への影響に関する調査研究」」委員
- 7) 社団法人農村環境整備センター「大里地区多面的機能その他調査検討業務」委員

吉田 友彦

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読付き論文

- 1) 西廣大輔・小山雄資・吉田友彦「郊外戸建住宅団地における空家の借家歴に関する研究」2005年11月、都市住宅学、pp.47-52
- 2) 吉田友彦・リムボン「建物登記からみる新宿区職安通り地区の韓国系商店の特徴」2005年11月、都市住宅学、pp.65-70
- 3) 小山雄資・吉田友彦「筑波研究学園都市の公務員宿舎における需要構造の変容過程- 家族世帯用宿舎における空き住戸割合の分析を通して」2005年11月、都市計画論文集第40集、pp.745-750
- 4) 吉田友彦・齋藤雪彦「放棄住宅地の立地と土地所有構造分析」2005年11月、都市計画論文集第40集、pp.739-744
- 5) 上北恭史・谷村秀彦・坂本淳二・吉田友彦・藤川昌樹・渡辺俊「北京豊盛地区四合院住区における共同居住の状況」2005年5月、日本建築学会計画系論文集第591集、pp.25-31

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) 吉田友彦「市街化調整区域の「旧宅造」地区」2005年11月、都市住宅学会つくば大会実行委員会資料集、pp.121-124
- 2) 吉田友彦「都市開発（都市計画研究の現状と展望）」2005年10月、都市計画257号、pp.58-61
- 3) 小山雄資・吉田友彦「筑波研究学園都市における公務員宿舎の現状と再編の方向」2005年9月、日本建築学会建築経済委員会PD資料、pp.115-118
- 4) 小山雄資・吉田友彦「筑波研究学園都市の公務員宿舎における空き住戸化と廃止措置の検証」2005年9月、日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.1567-1568
- 5) 吉田友彦・齋藤雪彦「首都圏における放棄住宅地の立地 千葉県を事例として」2005年9月、日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.1547-1548

(2) 学会活動

- 1) 日本建築学会・建築経済委員会・住宅の地方性小委員会・委員
- 2) 同・建築経済本委員会・委員

- 3) 同・関東支部・住宅問題専門研究委員会・委員
- 4) 同・都市計画委員会・郊外居住地WG・委員
- 5) 同・計画系論文集、技術報告集、及び関東支部研究選集の査読
- 6) 同・建築経済委員会パネルディスカッション資料集編集委員会（幹事）
- 7) 都市住宅学会・学術講演会つくば大会実行委員
- 8) 都市住宅学会・学術講演会つくば大会資料集編集WG委員

(3) 研究助成など

- 1) （財）国土技術研究センター（国土交通省）受託研究「木更津市における郊外戸建て住宅地の再生・再編のための実態把握等調査業務」（研究代表者、H17.9.1～H18.3.17）
- 2) 日本学術振興会科学研究費補助金・若手（B）「首都圏郊外部における放棄住宅地の環境管理に関する基礎的研究」（研究代表者）
- 3) 日本学術振興会科学研究費補助金・基盤（B）（2）「伝統的都市における街区保存手法の日中比較?北京と京都を事例として」（研究分担者）
- 4) 日本学術振興会科学研究費補助金・基盤（A）（2）1990年代に開花した「負の遺産」の価値転換理論とマイノリティ居住区の地域再生力」（研究分担者）

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

環境科学研究科：住環境計画論、環境科学実習、環境科学演習

社会工学類：土地利用計画・地区整備計画、アメニティ創造のまちづくり実習、社会工学特設講義「町並みのリフォーム演習」、特別聴講学生指導教員等

留学生センター：外国人留学生及びチューター向けオリエンテーション（国費2回・私費2回・チューター2回、合計年6回程度）

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 社会工学類広報委員会・委員
- 2) 社会工学類学生担当委員
- 3) システム情報工学研究科・留学生委員会・委員長

III. 社会的活動

- 1) N P O 法人・西山記念すまい・まちづくり文庫運営委員
- 2) 一級建築士登録（296144 号）

ANNUAL REPORT 2005 – 2006 No.29

2006 年 9 月発行

発行 筑波大学 社会システム・マネジメント専攻 総務委員会

〒 305-8573 茨城県つくば市天王台 1-1-1

TEL 029-853-5182 FAX 029-855-3849

写真 八森正泰・山鹿久木